Nikon
F100
すぐに撮影したい方は、P.17〜P.31の
「撮影の基本ステップ」をご覧ください。
使用説明書
Jp
F100 (Jp)

各部の名称

CE “CEマーキング” について

CEはヨーロッパ協定（Conformité Européenne）の意味で、マーキングはその製品が適応されるEC規定をすべて満たしていることを表しています。

視度調節ノブ ☞ P.65

ファインダー接眼窓

コマンドロック
ボタン ☞ P.51/53

カスタム
セッティング
ボタン ☞ P.72

裏ぶたロック
ボタン ☞ P.22

裏ぶたロック
レバー ☞ P.22

フィルム確認窓

マルチパワーバッテリーパック
MB-15用接点

AE/AFロックボタン ☞ P.43/56

AF作動ボタン ☞ P.38

メインコマンドダイヤル
☞ P.6

単3ホルダー着脱
ノブ ☞ P.18

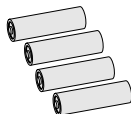
フォーカスエリアセレクター
ロックレバー ☞ P.39

三脚ネジ穴

フォーカスエリア
セレクター ☞ P.39

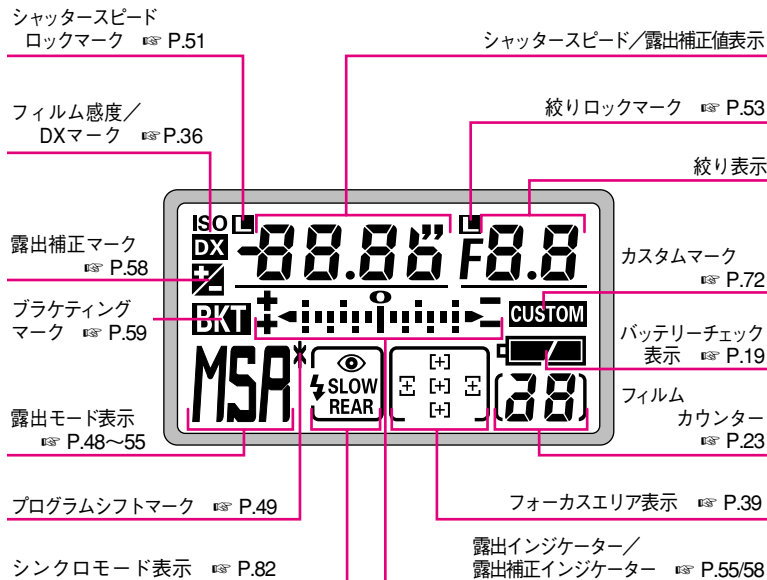
AFエリアモード
セレクトダイヤル ☞ P.40

付属品

ボディキャップ
☞ P.21

単3形乾電池4本
☞ P.18

アイピースキャップ
DK-8 ☞ P.69

ストラップ
（ボディ外箱に取り付け方が記載されています）

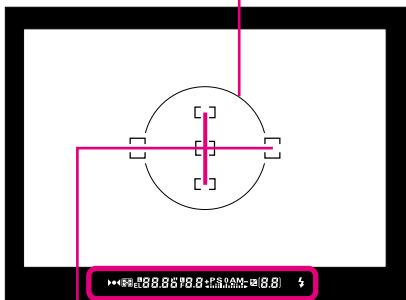
■表示パネル

〔イルミネーターパネルの寿命について〕

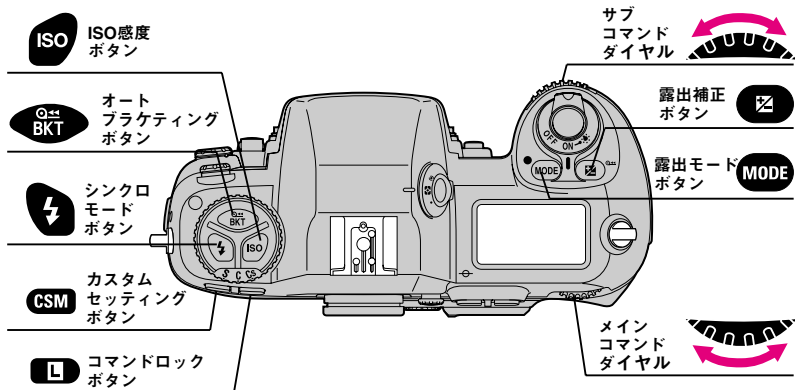
表示パネルを照明するイルミネーターパネルは消耗品ですので、使用状況によって明るさが徐々に低下します。これはイルミネーターパネルの消耗によるもので故障ではありません。イルミネーターパネルの交換をご希望の場合は、最寄りの当社サービス機関へお申し付けください（有料）。

☞ 注意　表示パネルとファインダー内表示の液晶について

表示パネルとファインダー内に使用されている液晶表示は、高温下では黒くなることがあります。また、低温下では液晶の応答速度が多少遅くなることがありますが、いずれの場合も常温時には正常に戻ります。

■ファインダー内表示

中央部重点測光エリアφ12mm ☞ P.47
フォーカスフレーム（エリア）／スポット測光エリア ☞ P.39/47
絞りロックマーク ☞ P.53
シャッタースピードロックマーク ☞ P.51
ピント表示 ☞ P.29
露出モード表示 ☞ P.48〜55
露出補正マーク ☞ P.58
レディライト ☞ P.81
測光モード表示 ☞ P.46
AEロック表示 ☞ P.56
シャッタースピード表示
絞り表示
フィルムカウンター／露出補正値表示 ☞ P.23/58
露出インジケーター／露出補正インジケーター ☞ P.55/58

コマンドダイヤルについて

■このカメラには2種類のコマンドダイヤルがついています。各操作ボタンと併用、または単独操作で次のような機能がセットできます。

■ **フィルム関係**

・フィルム感度のセット ☞ P.36

■ **露出関係**

・露出モードの選択 ☞ P.48〜55

・露出モードがPの時のプログラムシフト ☞ P.49

・露出モードがSまたはMの時のシャッタースピードのセット ※1 ☞ P.50/54

・露出モードがAまたはMの時の絞り値のセット ※1 ☞ P.52/54

・シャッタースピードのロック／解除
※1 ☞ P.51

・絞り値のロック／解除 ※1 ☞ P.53

・露出補正量のセット ※2 ☞ P.58

・オートブラケティングのセット
☞ P.59

・オートブラケティングの撮影枚数と補正ステップのセット ☞ P.59

カスタムセッティング関係

・カスタムセッティングのメニューナンバーの選択 ☞ P.72

・カスタムセッティングのセット
☞ P.72

スピードライト関係

・シンクロモードのセット ☞ P.82

※1 CS 12：通常のコマンドダイヤル操作とは逆に、サブコマンドダイヤルでシャッタースピードのセット・ロック／解除（S［シャッター優先オート］、M［マニュアル］時）、メインコマンドダイヤルで絞り値のセット・ロック／解除（A［絞り優先オート］、M［マニュアル］時）が行えるように変更できます（☞ P.75）。
※2 CS 13：露出補正ボタンを押さなくても、コマンドダイヤル操作だけで露出補正が行えるように変更できます（☞ P.75）。

はじめに

■このたびはニコンF100をお買い上げいただきありがとうございます。ご使用の前にこの「使用説明書」をよくお読みのうえ、十分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。
このカメラには、次のような特長があります。

・高速AFモジュール（マルチCAM1300）の搭載により、高速連続撮影においても優れたAF性能を発揮します。また、5つのフォーカスフレームを有効に活用するダイナミックAFモードは、特に動きの不規則な被写体でも精度の高いピント合わせを可能にします。
・ニコン独自の「3D-10分割マルチパターン測光」により、ほとんどのシーンで簡単かつ効果的に適正露出を得ることが可能です。
・撮影者の好みに合わせて各機能の内容をセットすることが可能な22項目のカスタムセッティング機能と2種類のコマンドダイヤルの採用により、極めて高い操作性を実現しています。
・堅牢なボディと、交換レンズをはじめとする豊富なニコンシステムアクセサリー群により、このカメラ一台で様々な撮影領域をカバーすることが可能です。

安全上のご注意と表示について

製品を安全に正しく使用していただき、あなたや他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、重要な内容を記載しています。
表示と意味は次のようになっています（詳細はP.14〜16をご覧ください）。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は、禁止（してはいけないこと）の行為を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合は電池を取り出す）が描かれています。

ご確認ください／表記上のおことわり

■ **保証書とカスタマ登録カードについて**

この製品には保証書とカスタマ登録カードが添付されていますので、ご確認ください。

・保証書の詳細につきましては、P.101の「アフターサービスと保証について」をご覧ください。

■ **使用説明書の再発行は当社サービス機関へ**

使用説明書の内容が破損などによって判読できなくなったときは、裏面の当社サービス機関にて新しい使用説明書をお求めください（有料）。

■ **撮影の前には試し撮りを**

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）をするときには、必ず試し撮りをして、カメラが正常に機能するかを事前に確認してください。

・本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用及び利益喪失等に関する損害）についての補償はご容赦願います。

■ **定期的に点検サービスを受けてください**

カメラは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールされることをおすすめします（有料）。

・特に業務用にご使用になる場合は、早めに点検整備を受けてください。
・点検整備を依頼される際は、より安心してご愛用いただけるよう一緒にお使いのレンズやスピードライト等も併せて点検依頼されることをおすすめします。

■ **本製品を安心してご使用いただくために**

本製品は、当社製のレンズ及びスピードライトなどのアクセサリーに適合するように作られておりますので、当社製品との組み合わせでご使用ください。

・他社製品との組み合わせ使用により、事故、故障などが起こることもございます。

表記上のおことわり

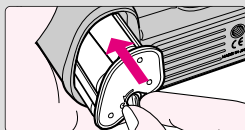
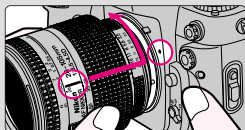
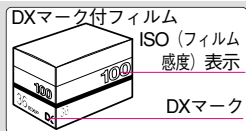
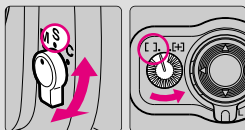
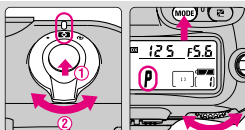
CS 00：カスタムセッティングにより、各機能を撮影者自身の好みに合った状態にセットできる内容が表記されています。数字はその機能のメニューナンバーです。

目次

「**撮影の基本ステップ**」では電池、レンズ、フィルム、ピント、測光・露出、構図・撮影と基本的な撮影手順を説明しており、一眼レフカメラを初めてお使いになる方でも、ここを順にお読みいただければ、簡単に撮影が行えます。
「**操作の詳細**」では、レンズから露出まで、「**撮影の基本ステップ**」とほぼ同じ順番で各機能をより詳しく説明しています。簡単な撮影方法をマスターした後、各機能の詳細へとステップアップすれば、高度なテクニックを必要とする撮影も行えます。
「**スピードライト撮影**」では、別売りスピードライトによる3D-マルチBL調光など多様なフラッシュ撮影について説明しています。

操作のながれと本書の構成

撮影の基本ステップ　P.17〜31

1 電池を入れ、容量を確認します。　P.18〜19

2 レンズを取り付けます。　P.20〜21

3 フィルムを入れます。　P.22〜23

4 フォーカス機能をセットします。　P.24〜25

5 測光モードと露出モードをセットします。　P.26〜27

6 カメラを構え、ピントを合わせます。　P.28〜29

7 ファインダー内表示を確認し、シャッターをきります。　P.30〜31

操作の詳細および電池の取り扱い　P.33〜69,90,97

⚠警　告

分解したり修理・改造をしないこと

感電したり、異常動作をしてケガをすることがあります。

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと

感電したり、破損部でケガをすることがあります。
電池を抜いて、販売店または当社サービス機関に修理を依頼してください。

すぐに修理依頼を

発熱、発煙、焦げ臭いなどの異常時は、速やかに電池を取り出すこと

そのまま使用すると火災、火傷の原因となります。
電池を取り出す際、火傷に充分注意すること。電池を抜いて、販売店または当社サービス機関に修理を依頼してください。

水につけたり水をかけたりしないこと

発火したり感電することがあります。

可燃性ガスの雰囲気中で使用しないこと

爆発、火災の原因になることがあります。

レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ないこと

失明や視力障害になることがあります。

⚠警　告

禁　止

ストラップが首に巻き付かないようにすること　特に幼児・児童の首にストラップをかけないこと

首に巻き付いて窒息することがあります。

⚠注　意

発光禁止

目の近くでスピードライトを発光しないこと

一時的な視力障害になることがあります。

ぬれた手で操作しないこと

感電の原因となります。

放置禁止

製品および付属品は、幼児の手の届かない所に保管すること

ケガをしたり付属品や電池を飲み込む恐れがあります。

保管注意

使用しないときは、レンズにキャップをつけるか太陽光のあたらない所に保管すること

太陽光がレンズに入射し、発火の原因となります。

移動禁止

三脚にカメラやレンズを取り付けたまま移動しないこと

転倒したりぶつけたりしてケガの原因となります。

⚠注　意

電池を火に入れたり、ショート、分解、加熱をしないこと

破裂、発火の原因となります。

電池に表示された警告・注意を守ること

破裂、発火の原因となります。

使用説明書に表示された電池を使用すること

発熱、発火の原因となります。

新しい電池と使用した電池、種類やメーカーの異なる電池をまぜて使わないこと

破裂、発火の原因となります。

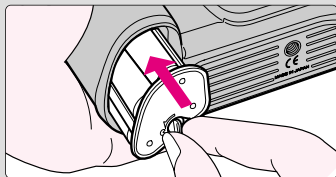
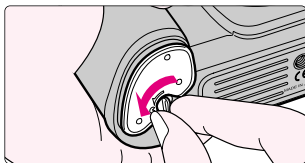
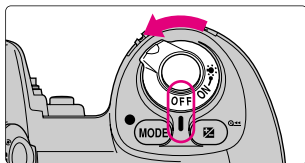
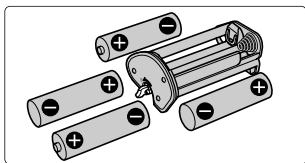
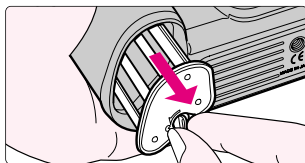
撮影の基本ステップ

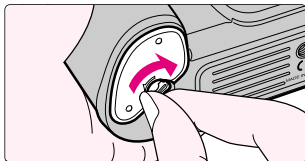
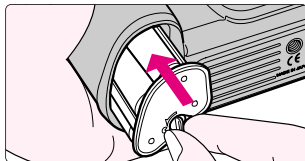
プログラムオートによる
簡単な撮影方法を説明しています。

ここでは、もっとも簡単な撮影方法として下表の装着レンズ、カメラ各部の設定を前提としています。一般的な撮影は、プログラムオートでほとんど行えます。

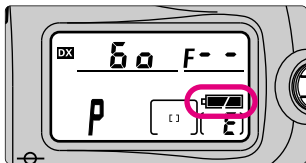
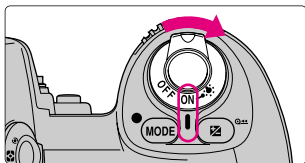
装着レンズ	⇒	DタイプAFニッコールレンズ
フィルム感度	⇒	DX
フィルム給送モード	⇒	1コマ巻き上げ（S）
フォーカスモード	⇒	シングルAFサーボ（AF-S）
フォーカスエリア	⇒	中央
AFエリアモード	⇒	シングルエリアAF（[ ]）
測光モード	⇒	3D-10分割マルチパターン測光（[●]）
露出モード	⇒	プログラムオート（P）

1 電池を入れ、容量を確認します。

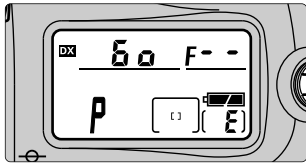
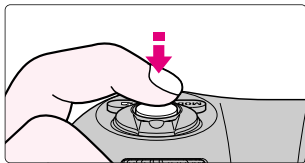
このカメラには、1.5Vの単3形アルカリ乾電池またはリチウム電池を4本使用します（その他の電源については、P.90をご覧ください）。

1.1 電源スイッチをOFFにし、単3ホルダー着脱ノブを☇方向に回してロックを解除します。

1.2 単3ホルダーをカメラから引き出して、単3ホルダーの⊕⊖表示にしたがって電池を4本入れます。

・⊕⊖を間違えますと、故障の原因となる場合があります。

1.3 単3ホルダーをカメラに入れ、単3ホルダー着脱ノブを☇方向とは逆に回して確実にロックします。

✓ここをチェックしましょう

□電池は幼児の手の届かないところに置き、万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください（P.97「電池の取り扱い」をご覧ください）。
□電池を交換する時は電源スイッチをOFFにして、4本とも同じメーカーの新品電池に交換してください。
□海外等へお出かけの際は、予備の電池をお持ちください。

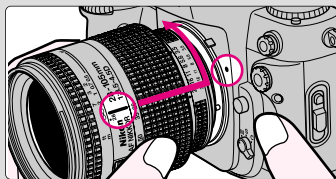
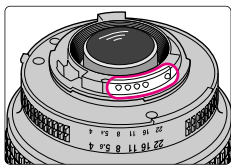
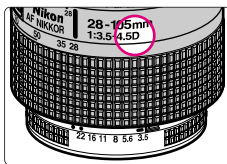
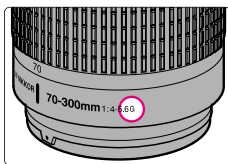
1.4 電源スイッチをONにして、バッテリーチェック表示 で電池容量を確認します。

（点灯）：電池の容量は充分です。
（点灯）：電池容量はわずかです。予備の電池を準備してください（ファインダー内表示は各操作ボタンから指を離すと消灯します）。
（点滅）：電池を交換してください（シャッターはきれなくなります）。

・電源スイッチをONにして約6秒経過すると、表示パネルから露出モード表示、バッテリーチェック表示、フィルムカウンター、フォーカスエリア表示、カスタムマーク（カスタム機能セット時）以外の表示が消灯します（ファインダー内は全ての表示が消灯します）。

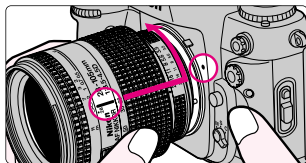
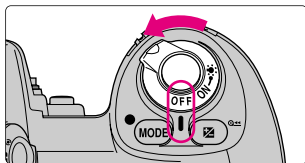
1.5 シャッターボタンの半押し操作と、半押しタイマーについて

・シャッターボタンを半押しする（軽く押す）と半押しタイマーが作動して指を離してから約6秒間、表示パネルとファインダー内の表示が再点灯します。

CS 15：半押しタイマーの時間を変更できます（☞ P.76）。

2 レンズを取り付けます。

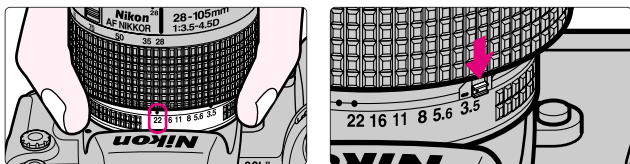
電源スイッチをOFFにし、レンズを取り付けます。

2.1 レンズの種類を確認します。

CPU内蔵ニッコールレンズにはCPU信号接点があります。

① Gタイプ以外の
CPU内蔵ニッコールレンズ

② Gタイプニッコール
レンズ

・①はGタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズで、このレンズには絞りリングがあります(イラストはDタイプニッコールレンズです)。
・②はGタイプCPU内蔵ニッコールレンズで、このレンズには絞りリングがありません。

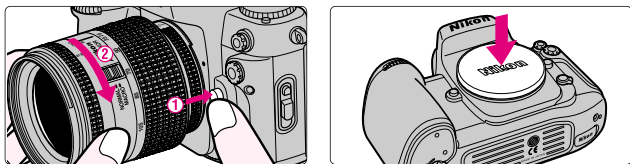
2.2 電源スイッチをOFFにし、カメラにレンズを取り付けます。

・カメラとレンズの着脱指標を合わせて、レンズを矢印方向にカチッと音がするまで回します(レンズ取り外しボタンは押さないでください)。
・レンズが装着されていない時や、CPU内蔵ニッコール以外のレンズ(☞ P.34)を装着した時は、電源スイッチをONにすると表示パネルとファインダー内表示にF--が点灯して警告します(プログラムオート、シャッター優先オート時は露出モード表示P、Sも点滅して警告します☞ P.48/50)。

✓ここをチェックしましょう

- □ できるだけ、DタイプまたはGタイプAFニッコールをご使用ください。このカメラの機能をフルに利用できます（P.34「このカメラに使用可能なレンズについて」をご覧ください）。
- □ レンズが不用意に作動しないよう、レンズの取り付け、取り外しの時はカメラの電源スイッチをOFFにしてください。
- □ レンズ装着時は、レンズ取り外しボタンを押さないでください。
- □ レンズの着脱は、直射日光を避けて行ってください。

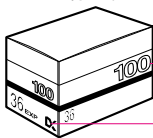
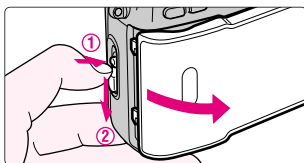
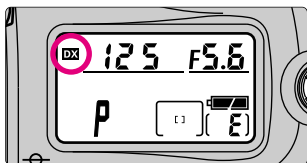
2.3 Gタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズを使用する場合は、絞りリングを最小絞りにセットして、ロックします。

・Gタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズの絞りリングが、最小絞り（最も数値の大きい絞り）にセットされていない時は、電源スイッチをONにすると表示パネルとファインダー内表示に fEE が点滅し、シャッターがきれません。

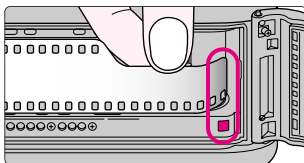
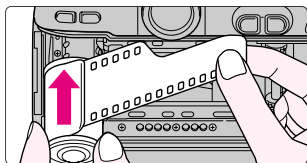
・Gタイプニッコールレンズを装着時、および絞りリングで絞りをセットする場合（☞ P.77）は、最小絞りにセットする必要はありません。

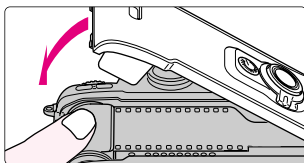
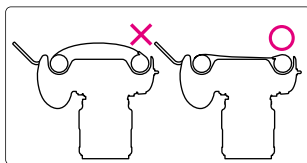
2.4 カメラからレンズを取り外すには

・レンズ取り外しボタンを押しながら①、レンズを矢印方向に回して外します②。

・カメラからレンズを長時間外しておく時は、付属のボディキャップ（☞ P.3）、または別売りのボディキャップBF-1Aを装着して、カメラの内部を保護してください（旧タイプのボディキャップBF-1は装着できません）。

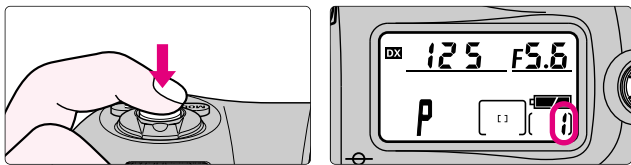
3 フィルムを入れます。

電源スイッチをONにし、カメラのフィルム感度をDXにセットして(☞ P.36)、DXマーク付フィルムを入れるとフィルム感度が自動設定されます（ISO25～5000)。次に裏ぶたを閉じてシャッターボタンを押すと、自動的に1コマ目まで空送りされます。

3.1 電源スイッチをONにし、フィルム感度がDXにセットされていることを確認して、裏ぶたロックボタンを押しながら、裏ぶたロックレバーをスライドさせて裏ぶたを開けます。

・フィルム感度がDXにセットされていない場合はP.36をご覧ください。

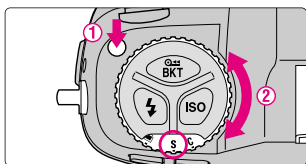
3.2 フィルムパトローネを上側から先に入れて、フィルムの先端をカメラの赤色マークに合わせます。

・フィルムの先端が、赤色マークより奥に入らないようにしてください。

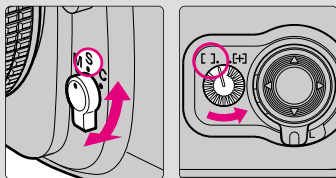
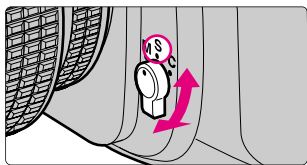
3.3 フィルムが浮き上がらないように注意しながら、裏ぶたをパチンと音がするまで静かに閉じます。

✓ ここをチェックしましょう

- □ DXマーク付きフィルム使用時のフィルム感度の変更方法やフィルム給送モードなどの詳細はP.36をご覧ください。
- □ シャッター幕は非常に薄い幕でできています。フィルムの出し入れの際、指やフィルムの先端がシャッター幕に触れないように十分ご注意ください。
- □ 屋外でフィルムを交換する時は、直射日光を避けてください。

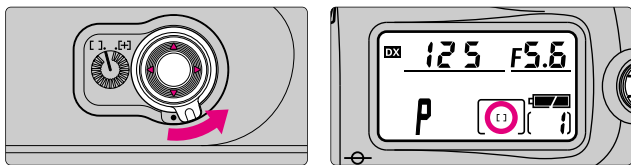
3.4 シャッターボタンを押すとフィルムが自動的に1コマ目まで空送りされます。

- 表示パネルのフィルムカウンターに 1 が表示されると、フィルムの装てんは完了です。
- 表示パネルとファインダー内表示に Err と E が点滅している場合は、フィルムが正しく装てんされていません。裏ぶたを開けてフィルムを入れ直してください。
- フィルム感度を DX にセットして、DXマークがないフィルムを入れると、**ISO** と DX、Err が点滅して警告し、シャッターがきれません。手動でフィルム感度をセットしてください（☞ P.36）。
- フィルムカウンターは電源スイッチをOFFにしても表示されます。
- フィルムの規定枚数は、フィルム確認窓で確認できます。

CS 8：フィルムの1コマ目までの空送りが、裏ぶたを閉じることで開始されるように変更できます（☞ P.74）。

3.5 給送モードセレクトダイヤルロックボタンを押しながら、給送モードセレクトダイヤルをS（1コマ巻き上げ）にセットします。

4 フォーカス機能をセットします。

フォーカスモードを S（シングルAFサーボ）、フォーカスエリアを中央、AFモードエリアを [ ]（シングルエリアAF）にセットします。

4.1 フォーカスモードセレクトダイヤルを S（シングルAFサーボ）にセットします。

・フォーカスモードセレクトダイヤルの操作は、カチッと音がするまで確実に行ってください。
・ピントを合わせる時は、シャッターボタンの半押しを続けるか（☞ P.29）、AF作動ボタンを押し続けてください（☞ P.38）。

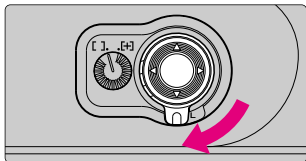
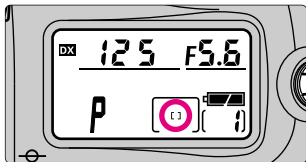
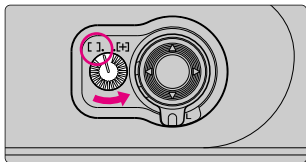
CS 4：オートフォーカスでピント合わせる時に、シャッターボタンの半押しではなく、AF作動ボタンの操作でのみ行えるように変更できます（☞ P.73）。

4.2 フォーカスエリアセレクターロックレバーを回転させてロックを解除し、フォーカスエリアセレクターでフォーカスエリアを中央にセットします。

・半押しタイマーがONの状態で、フォーカスエリアセレクターを上下左右に押すと、フォーカスエリアが押された方向に移動します（☞ P.39）。

✓ ここをチェックしましょう

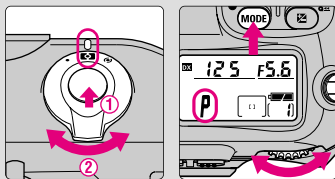
- □ フォーカスモードをS（シングルAFサーボ）やC（コンティニュアスAFサーボ）にセットした時は、レンズの距離リングは手で回さないでください。
- □ S（シングルAFサーボ）にセットすると、ピントが合っていない時は、シャッターはきれません。
- □ フォーカスモード、フォーカスエリア、AFエリアモードなどフォーカス機能の詳細はP.38〜45をご覧ください。
- □ オートフォーカスが苦手な被写体についてはP.44をご覧ください。

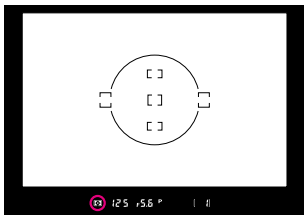
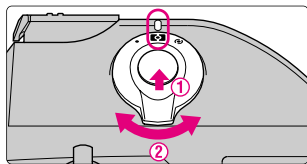
・フォーカスエリアセレクターの操作中、選択されているフォーカスエリア表示が表示パネルとファインダー内に点灯します（ファインダー内は赤色に点灯 ☞ P.39）。

4.3 フォーカスエリアセレクターロックレバーを回転させて、フォーカスエリアセレクターをロックします。

4.4 AFエリアモードセレクトダイヤルを[ ]（シングルエリアAF）にセットします。

・AFエリアモードセレクトダイヤルの操作は、止まるまで確実に行ってください。

測光モードと露出モードをセットします。

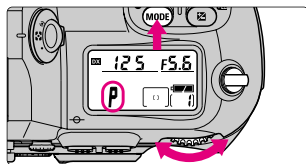
5

測光モードを ▣（マルチパターン測光）に、露出モードを P（プログラムオート）にセットします。

5.1

測光モードセレクトダイヤルロックボタンを押しながら、測光モードセレクトダイヤルを ▣（マルチパターン測光）にセットします。

- ファインダー内表示にマルチパターン表示 ▣ が点灯します。
- マルチパターン測光は、撮影画面を10分割して、それぞれの部分を独立して測光した情報に基づいて、最適な露出値を決定します。さらにDタイプまたはGタイプAFレンズを装着した場合には、画面内の最大輝度、輝度差情報に加えカメラから被写体までの距離情報を加味して測光の精度を高めた、3D-10分割マルチパターン測光となります（☞ P.46）。

✓ここをチェックしましょう

- □測光モードにはマルチパターン測光、中央部重点測光、スポット測光の3種類があります。各測光モードの詳細についてはP.46をご覧ください。
- □露出モードにはプログラムオート、シャッター優先オート、絞り優先オート、マニュアルの4種類があります。各露出モードの特長を活用すれば、被写体や撮影意図に合わせて効果的な撮影が行えます。各露出モードの特長は5.2を、さらに特長と撮影方法の詳細は各表示の下に表記された参照ページをご覧ください。

5.2 露出モードボタン MODE を押しながら、メインコマンドダイヤルで露出モードをP（プログラムオート）にセットします。

・シャッターボタンを半押しすると、シャッタースピードと絞りが表示パネルとファインダー内表示に点灯します。

■各露出モードの特長

表示	名称	特長・こんな時に使用すると便利です。
P P.48	プログラムオート	シャッタースピードも絞りもカメラが制御します。プログラムシフト（☞ P.49）や露出補正（☞ P.58）により、カメラが決定した露出に撮影者の意図を加味することもできます。
S P.50	シャッター優先オート	シャッタースピードをセットすれば、絞りはカメラが制御します。動きのある被写体を速いシャッタースピードで写し止めたり、遅いシャッタースピードで動きを強調したりすることが可能です。
A P.52	絞り優先オート	絞りをセットすれば、シャッタースピードはカメラが制御します。手前から奥まで鮮明に写す、背景をボカすなどの被写界深度（ピントの合う前後の範囲）を考慮した撮影に最適です。
M P.54	マニュアル	シャッタースピードも絞りも自由にセットできます。他の露出モードでは意図した撮影が難しい時などに便利です。

6 カメラを構え、ピントを合わせます。

シャッターボタンの半押しを続けると、カメラがピント合わせを行い、ピントが合うとファインダー内の合焦表示●が点灯します。

6.1 カメラを正しく構えます。

- わきを締め、ひじは軽く体につけます。
- 片足を軽く踏み出し、上半身を安定させます。
- 右手で、カメラのグリップを包みこむように持ち、左手はレンズを支えます。
- マルチパワーバッテリーパックMB-15（別売り☞ P.90）を装着すると、縦位置に構えた時にシャッターがきりやすくなります。

要点 手ブレとシャッタースピードについて

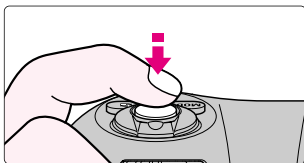
撮影に手ブレは禁物です。撮影時の目安として、シャッタースピードは「1／装着しているレンズの焦点距離」秒より高速になるようにこころがけてください（例：50mmレンズの場合は、1／50秒より高速になるように）。低速時は三脚のご使用をおすすめします。

☞ 注意 構図を決める際のご注意

このカメラのファインダーで確認できる範囲（ファインダー視野率）は、実際に撮影される画面の約96%です。したがって、ファインダーをのぞいて見た視野よりも、実際に撮影される画面は多少広くなります。ただし、ネガフィルムをサービスサイズなどでプリントした場合には、実際に撮影した画面よりも画面の周囲が数ミリカットされる傾向がありますので、ご注意ください。

✓ここをチェックしましょう

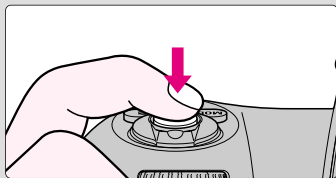
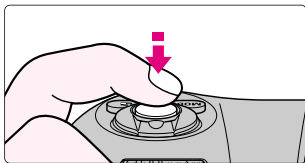
- □ファインダー像がはっきりしない時は、視度調節（☞ P.65）を行ってください。ファインダー像が確認しやすくなります。
- □主要被写体（ピントを合わせたい人物やものなど）がフォーカスエリアから外れる構図で撮影する場合は、フォーカスエリアセレクターでフォーカスエリアを選択し直す（☞ P.39）か、「フォーカスロック撮影」（☞ P.42）を行ってください。
- □データバックMF-29（別売り）を装着すると日付と時刻の写し込みが行えます（☞ P.93）。

6.2 構図を決め、シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。

・ピントを合わせたいものにフォーカスエリアを重ねてシャッターボタンの半押しを続けると、カメラが自動的にピント合わせを行い、ファインダー内表示に次の表示が点灯または点滅します。

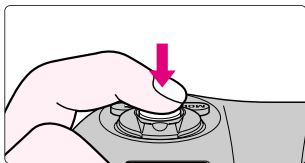
● （点灯）：被写体にピントが合っています。
▶ （点灯）：目的の被写体よりも手前にピントが合っています。
◀（点灯）：目的の被写体よりも後方にピントが合っています。
▶ ◀（点滅）：オートフォーカスでピント合わせができません。

・ピントを合わせたいものがフォーカスエリアから外れる構図で撮影する場合は、フォーカスエリアセレクターでフォーカスエリアを選択し直す（☞ P.39）か、「フォーカスロック撮影」（☞ P.42）を行ってください。
・オートフォーカスが苦手な被写体については、P.44をご覧ください。

7 ファインダー内表示を確認し、シャッターをきります。

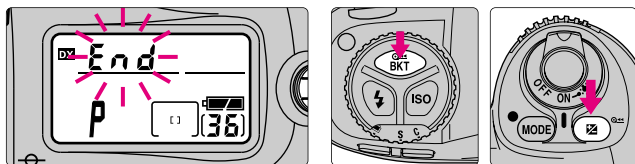
合焦表示 ● を確認し、シャッターボタンをゆっくりと深く押してシャッターをきってください。はじめから被写体が動いている時は、被写体の動きに合わせてカメラが自動的にピントを追い続けます。

7.1 シャッターボタンを半押しし、ファインダー内表示を確認します（シャッタースピードと絞りは1／3段ステップで表示されます）。

・表示パネルやファインダー内表示に警告が行われた場合、P.48を参考に対応してください。

CS 2：表示パネルとファインダー内に表示されるシャッタースピードと絞りのステップを1／2段または1段に変更できます（☞ P.73）。

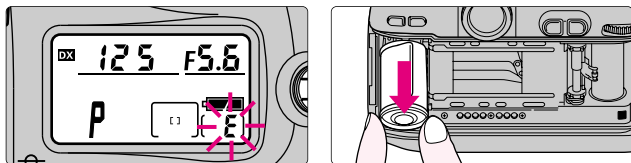
7.2 合焦表示 ● の点灯を確認して、静かにシャッターボタンを押し込みます。

・シャッターをきるとフィルムは自動的に1コマ巻き上げられ、次の撮影の準備が完了します。

✓ ここをチェックしましょう

- □ ファインダー内表示でピントと露出の確認ができます。警告が行われた場合はP.48を参考に対応してください。
- □ フィルムの最後のコマが撮影されると、表示パネルにEndが点滅します。2つのフィルム巻き戻しボタン を同時に押して、フィルムの巻き戻しを行ってください。
- □ フィルムの途中巻き戻しについては、P.36をご覧ください。
- □ セルフタイマー撮影に関しては、P.69をご覧ください。
- □ リモート撮影については、P.95をご覧ください。

7.3 フィルムの最後のコマが撮影されると、Endが点滅します。2つのフィルム巻き戻しボタン を約1秒間同時に押して、フィルムの巻き戻しを行ってください。

- フィルム巻き戻し中は、表示パネルにフィルム巻き戻し表示 が点滅し、フィルムコマ数がカウントダウン表示されます。
- 規定枚数を超えて撮影したコマは現像処理上カットされることがあります。

CS 1：撮影フィルムが終了すると、自動的にフィルムの巻き戻しが開始されるように変更できます（☞ P.73）。

7.4 巻き戻しの完了を確認して、フィルムを取り出します。

- 表示パネルに E が点滅（半押しタイマーがOFFになると点灯）すると巻き戻しは完了です。直射日光を避けて裏ぶたを開け、パトローネを斜め上に持ち上げながらフィルムを取り出してください。

コラム：測光・露出

測光と露出は写真撮影の重要なポイント。それぞれの特徴を知っておくことによって、表現の幅を広げることができます。

測光

撮影しようとする被写体（写したい対象物）の明るさを測ることを測光といいます。測光は露出（露光）を決める時の重要な情報源で、これによりフィルムに最適な光（適正露出）を与えるシャッタースピードと絞りの組み合わせが決定されます。
通常、被写体が含まれる撮影画面内の明るさは必ずしも一様ではないため、このカメラは、画面を10分割し、それぞれの部分を独立して測光した情報を利用して適正露出を決める「マルチパターン測光」と、撮影画面内中央部の明るさに重点を置いて適正露出を決める「中央部重点測光」、5つのフォーカスエリアのうち選択した1つに重なる狭い測光エリアで測光する「スポット測光」の3つの測光モードを備えています。
なお、DタイプまたはGタイプニッコールレンズを装着してマルチパターン測光を選択するとさらに距離情報を加味した「3D-10分割マルチパターン測光」となり、より高い測光精度を発揮します。（☞ P.46）

露出（露光）

被写体（写したい対象物）をカメラのレンズを通してフィルムに感光させて記録することをいいます。その時、被写体の明るさとフィルムの感度に合わせ、シャッタースピードと絞りを調節して、フィルムに最適な光（適正露出）を与えることが大切です。
このカメラは適正露出を得るため、プログラムオート（☞ P.48）、シャッター優先オート（☞ P.50）、絞り優先オート（☞ P.52）、マニュアル（☞ P.54）の4つの露出モードを備えています。また、各オート露出時にカメラが制御する露出に対して、撮影者の意図を反映できるAEロック機能（☞ P.56）、露出補正機能（☞ P.58）、オートブラケティング（自動段階露出）機能（☞ P.59）も備えています。

操作の詳細

このカメラの各機能をレンズ、フィルム、
ピント、露出、その他の機能の順に
詳細に説明しています。

このカメラに使用可能なレンズについて

■このカメラには、CPU内蔵ニッコール（DXニッコールおよびIXニッコールを除く）をご使用ください。特に、DタイプまたはGタイプAFニッコールレンズを装着すれば、全ての機能が使用できます（☞ P.20）。

要点　GタイプおよびGタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズについて

・Gタイプニッコールレンズは、レンズ本体から絞りリングを無くしたレンズです。このため、このカメラに使用する場合、従来の絞りリングがあるレンズのように、絞りリングを最小絞り（最も数値の大きい絞り）にセットする必要がありません。
・Gタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズには、絞りリングがあります。このカメラに使用する場合は、絞りリングを最小絞りにセットしてロックします。絞りリングが最小絞りにセットされていない時は、電源スイッチをONにすると表示パネルとファインダー内表示に FEE が点滅し、シャッターがきれません（絞りリングで絞りをセットする場合を除く ☞ P.77）。

CPU内蔵ニッコール以外のレンズ装着時には

露出モードをA（絞り優先オート）またはM（マニュアル）に、測光モードを中央部重点測光またはスポット測光にセットしてください。これ以外にセットした場合は、表示パネルの露出モード表示（ P または S ）が点滅して警告すると同時に、自動的に露出モードを A、測光モードを中央部重点測光 ⊡ に切り換えて制御します（ファインダー内表示には **A** が点灯します）。また、コマンドダイヤルによる絞りのセットはできなくなり、表示パネルとファインダー内表示の絞り表示も F-- となりますので、絞りのセットと確認はレンズの絞りリングで行ってください。

注意　使用できないCPU内蔵ニッコール以外のレンズ等について

下記のCPU内蔵ニッコール以外のレンズ等は使用できません。無理に装着しようとすると、カメラやレンズを破損しますのでご注意ください。

・AFテレコンバーターTC-16AS
・Ai改造をしてないニッコールレンズ（Ai方式以前の連動爪を使用するタイプ）
・フォーカシングユニットAU-1を必要とするレンズ（400mm f/4.5　600mm f/5.6　800mm f/8　1200mm f/11）
・フィッシュアイ（6mm f/5.6　7.5mm f/5.6　8mm f/8　OP10mm f/5.6）
・旧21mm f/4
・K1リング、K2リング、オート接写リングPK-1、PK-11、BR-2リング、BR-4リング
・ED180～600mm f/8（製品No.174041～174180）
・ED360～1200mm f/11（製品No.174031～174127）
・200～600mm f/9.5（製品No.280001～300490）
・F3AF用（80mm f/2.8　200mm f/3.5　テレコンバーターTC-16S）
・PC28mm f/4（No.180900以前の製品）
・PC35mm f/2.8（製品No.851001～906200）
・旧PC35mm f/3.5
・旧レフレックス1000mm f/6.3
・レフレックス1000mm f/11（製品No.142361～143000）
・レフレックス2000mm f/11（製品No.200111～200310）

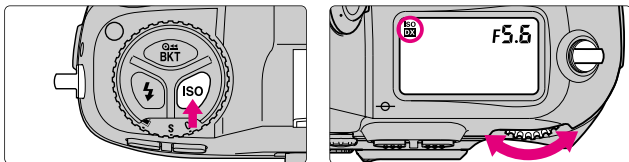
■CPU内蔵ニッコールの種類と使用できるその他のレンズについて

	モード / レンズ	フォーカスモード			露出モード		測光モード		
		オートフォーカス	フォーカスエイド	マニュアル	P S	A M	マルチパターン測光 3D-10分割	マルチパターン測光 10分割	中央部重点測光 スポット測光※1
CPU内蔵ニッコール※6	Dタイプ AFレンズ、Gタイプ AFレンズ、AF-Sレンズ、AF-Iレンズ ※2	○	○	○	○	○	○	—	○
	PCマイクロ85mm f/2.8D ※3	—	○※4	○	—	○※5	○	—	○
	AF-S、AF-Iテレコンバーター ※7	○※8	○※8	○	○	○	○	—	○
	DタイプおよびGタイプ以外のAFニッコール（F3AF用を除く）	○※9	○※9	○	○	○	—	○	○
	Ai-Pニッコール	—	○※10	○	○	○	—	○	○
CPU内蔵ニッコール以外のレンズ等※11	Ai-S、Ai、シリーズEレンズ、改造Aiニッコール	—	○※10	○	—	○	—	—	○
	メディカル120mm f/4	—	○	○	—	○※12	—	—	—
	レフレックスレンズ	—	—	○	—	○	—	—	○
	PCニッコール	—	○※4	○	—	○※13	—	—	○
	Ai-S、Aiテレコンバーター	—	○※8	○	—	○	—	—	○※14
	ベローズPB-6 ※15	—	○※8	○	—	○※16	—	—	○
	オート接写リング（PK-11A.12.13.PN-11）	—	○※8	○	—	○	—	—	○

※1：CPU内蔵ニッコールレンズ装着時はフォーカスエリアの選択によりスポット測光エリアの移動が可能（☞ P.47）。
※2：このカメラはVRニッコールレンズのVR（手ブレ補正）機能に対応しています。
※3：カメラの測光モード、および調光制御機能は、あおり操作（シフト、ティルトとも）を行っているとき、または開放絞り以外に絞りがセットされているときには、正しく機能しません。
※4：あおり操作を行っていない場合のみ可能。
※5：露出モードはマニュアル（M）で使用可能。
※6：DXニッコールおよびIXニッコールは使用できません。
※7：AF-Sレンズ、AF-Iレンズ専用。ただしAF-S ED17～35mm f/2.8D、AF-S ED24～85mm f/3.5～4.5G、AF-S VR ED24～120mm f/3.5～5.6G、AF-S ED28～70mm f/2.8Dは使用できません。また、AF-S TC-20EⅡおよびAF-I TC-20Eは、AF-S VR ED200～400mm f/4G、AF-S ED300mm f/4D、AF-S ED500mm f/4DⅡ、AF-S ED500mm f/4D、AF-I ED500mm f/4D、AF-S ED600mm f/4DⅡ、AF-S ED600mm f/4D、AF-I ED600mm f/4Dとの組み合わせではAF撮影はできません。
※8：合成絞りがf/5.6以上明るい場合のみ使用可能。
※9：AF 80～200mm f/2.8S、AF 35～70mm f/2.8S、AF 28～85mm f/3.5～4.5S（New）、AF 28～85mm f/3.5～4.5Sレンズを使用し、ズームの望遠側かつ至近距離で撮影した場合、ファインダースクリーンのマット面の像とオートフォーカスの合焦表示が合致しない場合があります。このような場合は、マニュアルフォーカスによりファインダースクリーンのマット面を利用してピントを合わせて撮影してください。
※10：開放絞りがf/5.6以上明るい場合のみ使用可能。
※11：一部装着不可能なレンズ（☞ P.34）があります。
※12：露出モードはマニュアル（M）で、シャッタースピードは1/125秒以下で使用可能。
※13：絞り込み測光で使用します。露出モードが絞り優先オート（A）の場合はレンズ側で絞りプリセットを行いAEロック後アオリを行ってください。マニュアル（M）の場合はレンズ側で絞りプリセットを行い、アオる前に測光して露出を決定してください。
※14：Ai 28～85mm f/3.5～4.5S、Ai 35～105mm f/3.5～4.5S、Ai 35～135mm f/3.5～4.5S、AF-S 80～200mm f/2.8Dレンズの組み合わせによっては、露出補正を行う必要があります。詳細はテレコンバーターの使用説明書をご覧ください。
※15：縦位置にして装着してください（装着後、横位置に戻すことは可能です）。
※16：絞り込み込み測光で使用可能、露出モードが絞り優先オート（A）の場合はベローズ側で絞り込みを行い測光後撮影してください。

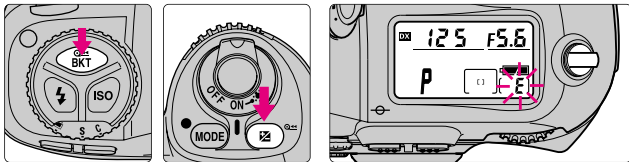
・複写装置PF-4はカメラアダプターPA-4を併用すると装着できます。

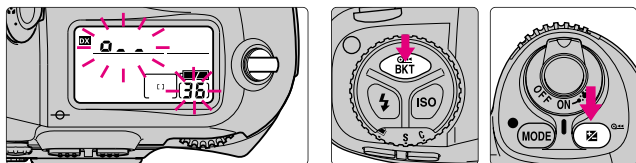
■フィルム感度のセットと確認方法

ISO感度ボタン ISO を押しながら、メインコマンドダイヤルで使用するフィルムのISO感度をセットします。

・コマンドダイヤルの回転でフィルム感度を DX またはISO6～6400の範囲（1/3段ステップ）にセットすることができます。
・DXマーク付フィルムの場合は、DX にセットしてフィルムを装てんするとISO25～5000の範囲でフィルム感度は自動設定されます。また、DXマーク付フィルムを装てんして、DX 以外の感度にセットすると、その感度が優先されますので、フィルムの増感・減感を行う撮影に便利です。
・DXマークがないフィルムの場合は、ISO6～6400の範囲でセットできます。
・いずれの場合も、セットされているフィルム感度の確認はISO感度ボタン ISO を押すだけで行えます。

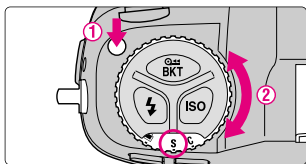
CS 5：DX にセットして、誤ってDXマークがないフィルムを装てんすると、**ISO**、DX、Err が点滅して警告しますが、通常、フィルムを1コマ目まで空送りした後に行われるこの警告を、電源スイッチONの状態で行われるように変更できます（☞ P.73）。

■フィルムの途中巻き戻しについて（撮影途中でフィルムを巻き戻す場合）

2つのフィルム巻き戻しボタン を約1秒間同時に押します。

・フィルム巻き戻し中は、表示パネルにフィルム巻き戻し表示 が点滅し、フィルムコマ数がカウントダウン表示されます。
・E が点滅（半押しタイマーがOFFになると点灯）すると巻き戻しは完了です。裏ぶたを開けてフィルムを取り出してください。

■フィルムの巻き戻しが行われない場合

・電池容量が極端に低下している場合や低温時には、表示パネルにフィルム巻き戻し表示 とフィルムカウンターが点滅し、フィルムの巻き戻しが行われなかったり、巻き戻し途中でモーターが停止したりすることがあります。このような時は、いったん電源スイッチをOFFにして電池を交換した後、電源スイッチをONにして、再度巻き戻し操作を行ってください。

■フィルム給送モードについて

給送モードセレクトダイヤルロックボタンを押しながら、給送モードセレクトダイヤルをセットします。

・フィルム給送モードの種類と特徴は次のとおりです。

S：1コマ巻き上げ

シャッターボタンを押すごとに、フィルムが1コマずつ巻き上げられます。

C：連続巻き上げ

シャッターボタンを押し続けると、フィルムが最高約4.5コマ／秒で連続して巻き上げられます。連続撮影に便利です。

Cs：低速連続巻き上げ

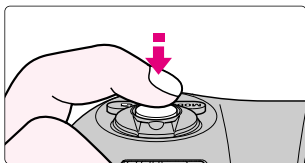
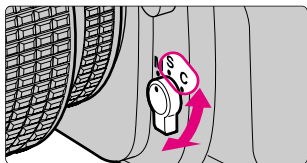
シャッターボタンを押し続けると、フィルムが最高約3コマ／秒で連続して巻き上げられます。巻き戻し速度も遅くなり、巻き戻し音は小さくなります。

巻き上げ速度は、フォーカスモードC、露出モードM、シャッタースピード1／250秒以上、絞り開放以外、常温20℃、単3形アルカリ乾電池使用時の1～36枚撮影時の平均値です。

・給送モードセレクトダイヤルを ▣ にセットすると多重露出撮影（☞ P.62）が、 にセットするとセルフタイマー撮影（☞ P.69）が行えます。

・通常、ミラーダウン開始時に行われるフィルム巻き上げが、電池消耗時にはミラーダウン完了後に行われるように自動的に切り換わるため、連続巻き上げ速度が遅くなります。この場合は、早めの電池交換をおすすめします。

オートフォーカスについて

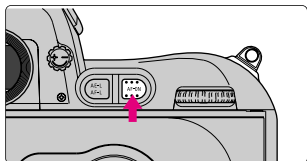
■フォーカスモードセレクトダイヤルについて

・フォーカスモードセレクトダイヤルを **S**（シングルAFサーボ）、または **C**（コンティニュアスAFサーボ）にセットしシャッターボタンの半押しを続けると、フォーカスエリア内（☞ P.39）の被写体に自動的にピントを合わせます。

S：シングルAFサーボ（AF-S・フォーカス優先モード）

ファインダー内表示の合焦表示 ● が点灯している時のみシャッターがきれるフォーカス優先モードです。合焦表示 ● が点灯した状態でシャッターボタンの半押しを続けると、ピントはそこで固定（フォーカスロック）されます。ただし、初めから動いている被写体には予測駆動フォーカス（☞ P.70）に切り換わり、被写体の動きに応じてピントを追い続け、ピントが合っているとカメラが判断するとシャッターはきれます。被写体が静止した時は合焦表示 ● が点灯して、ピントはそこでフォーカスロックされます。

C：コンティニュアスAFサーボ（AF-C・レリーズ優先モード）

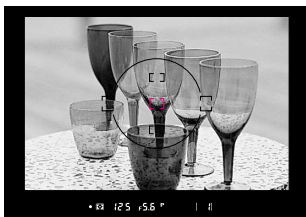
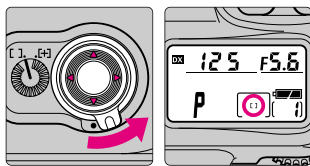
ファインダー内表示の合焦表示 ● の点灯、消灯にかかわらず、いつでもシャッターをきることができるレリーズ優先のモードです。いったん合焦表示 ● が点灯してもフォーカスロックは行われず、シャッターをきるまでピント合わせの動作を続けます。また、シャッターボタンの半押しを続けると、動いている被写体には予測駆動フォーカス（☞ P.70）に切り換わり、被写体の動きに応じてピントを追い続けます。

■AF作動ボタンについて

・オートフォーカスで撮影中にAF作動ボタン AF-ON を押し続けると、シャッターボタンの半押しを続けた時と同様にカメラが自動的に被写体にピントを合わせます。

CS 4：シャッターボタンの半押しではなく、AF作動ボタン AF-ON の操作でのみオートフォーカスが作動するように変更できます（☞ P.73）。

フォーカスエリアについて

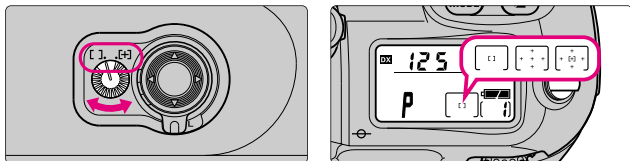
■このカメラには、撮影画面内の広い範囲をカバーする5つのフォーカスフレームがあります。被写体の位置や構図に合わせてフォーカスエリアの位置を選択できますので、被写体の状況によっては撮影したい構図のままピント合わせが行え、フォーカスロックの手間を省くことができます。

フォーカスエリアセレクターロックレバーを回転させてロックを解除し、フォーカスエリアセレクターでフォーカスエリアを選択します。

・シャッターボタンを半押しし、フォーカスエリアセレクターを上下左右に押して希望するフォーカスエリアを選択します。選択されたフォーカスエリアはファインダー内では赤色に点灯します。表示パネルのフォーカスエリア表示も点灯します。
・フォーカスエリアを選択した後、フォーカスエリアセレクターロックレバーを回転させてロックすると、フォーカスエリアを選択した位置に固定することができます。
・ファインダースクリーンを他のタイプに交換してもフォーカスエリアの選択は可能です。

CS 6：フォーカスエリアセレクターの右を押すと右方向に、左を押すと左方向に、上を押すと上方向に、下を押すと下方向にそれぞれフォーカスエリアを連続的に循環させることができます。これによりフォーカスエリアセレクターの押す位置を変えることなく反対側のフォーカスエリアの選択が可能になります（☞ P.74）。

AFエリアモードについて

■オートフォーカスでAFエリアモードセレクトダイヤルを切り換えると、選択したフォーカスエリアのみでピント合わせを行うシングルエリアAFモード、または他の4つのフォーカスフレームも活用してピント合わせを行うダイナミックAFモードのいずれかを選ぶことができます。

AFエリアモードセレクトダイヤルで、AFエリアモードをセットします。

・AFエリアモードセレクトダイヤルをシングルエリアAFモードに切り換えると、表示パネルにシングルエリアAFモード表示 [ ] が、またダイナミックAFモードに切り換えると、ダイナミックAFモード表示 [+] または [+] が点灯します（☞ P.41）。

[ ]：シングルエリアAFモード
5つのフォーカスフレームの中から、撮影者自身が選択した1つのフォーカスエリアだけでピント合わせを行うモードです。このモードは、動きの少ない被写体に対して選択したフォーカスエリア単独で正確にピント合わせを行いたい場合などに便利です。

[+]：ダイナミックAFモード
1つのフォーカスエリアのみでピントを合わせるシングルエリアAFモードに対し、ダイナミックAFモードでは、複数のフォーカスフレームを使用してピント合わせを行います。撮影者自身が選択した1つのフォーカスエリアからピントを合わせたい被写体が一時的に外れてしまった場合でも、他のフォーカスフレームからのピント情報を利用してピント合わせを行うことが可能です（ファインダー内のフォーカスエリア表示は変化しません）。このモードは動いている被写体（特に不規則な動きをする被写体）を追い続ける時など、被写体をフォーカスエリアに正確に捉え続けることが困難な場合に便利です。さらに、ダイナミックAFモードでは次ページの「至近優先ダイナミックAF」も使用可能です。

■至近優先ダイナミックAFについて

- 至近優先ダイナミックAFとは、AFエリアモードがダイナミックAFモードの時に使用可能な機能で、5つのフォーカスフレームのうち、自動的にいちばん手前にある被写体に重なっているフォーカスフレームを使用してピント合わせを行う方法です。5つのフォーカスフレームのいずれかに必ずピントが合いますので、ピントの外れた写真を避けることができます。
- 至近優先ダイナミックAFの時は、表示パネル、ファインダー内ともにフォーカスエリアは表示されません。
- 望遠レンズ使用時および被写体の輝度が低い時には、至近のフォーカスエリアが選択されない場合があります。その際にはシングルエリアAFモードのご使用をおすすめします。

CS 9. 10：至近優先ダイナミックAFはフォーカスモードがシングルAFサーボ（AF-S）でも、コンティニュアスAFサーボ（AF-C）でも使用できますが、AF-Sの時は初期設定で自動的にセットされ、キャンセルは CS 9で行います。AF-Cの時は、CS 10でセットします（☞ P.74）。

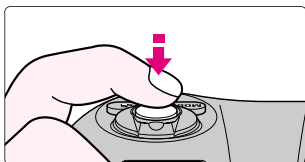
■オートフォーカス機能の一覧表

	フォーカスモード	フォーカスエリアの選択	AFエリアモード	至近優先ダイナミックAF	表示パネル	フォーカスエリアの点灯と消灯
I	AF-S	手動	シングルエリアAF	———		点灯
II	AF-S	自動	ダイナミックAF	する（初期値）		消灯
III	AF-S	手動	ダイナミックAF	しない CS 9で解除		点灯
IV	AF-C	手動	シングルエリアAF	———		点灯
V	AF-C	手動	ダイナミックAF	しない（初期値）		点灯
VI	AF-C	自動	ダイナミックAF	する CS 10で設定		消灯

- 各組み合わせの特長については「コラム：AF機能の組み合わせと特長」（☞ P.88）をご覧ください。また、上表のI～VIはコラムの表のI～VIに対応しています。

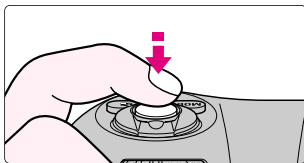
フォーカスロック撮影

■オートフォーカスで主要被写体（ピントを合わせたい人物やものなど）が5つのフォーカスフレームのいずれからも外れる構図の時に使用します。また、「オートフォーカスが苦手な被写体」（☞ P.44）にも有効です。操作手順は シングルAFサーボ（AF-S）とコンティニュアスAFサーボ（AF-C）で異なります。

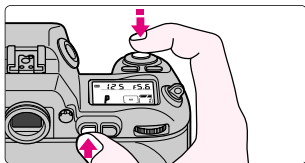
1 ピントを合わせたいものにフォーカスエリアを重ねて、シャッターボタンを半押しします。

・ピントが合うと合焦表示●が点灯します。

2 合焦表示●が点灯したら、フォーカスロックを行います。

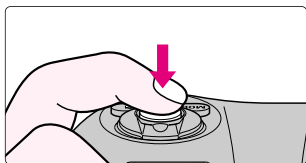
シングルAFサーボ（AF-S）の場合

シャッターボタンの半押しを続けると、ピントがそのまま固定（フォーカスロック）されます。

・AE／AFロックボタン AE-L/AF-L を押してフォーカスロックを行うこともできます（コンティニュアスAFサーボの場合を参照）。

コンティニュアスAFサーボ（AF-C）の場合

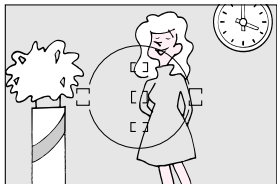
シャッターボタンを半押ししたまま、AE／AFロックボタン AF-L AE-L を押すと、ピントがそのまま固定（フォーカスロック）されます。

・シャッターボタンから指を離しても、AE／AFロックボタン AF-L AE-L を押している間はフォーカスロックされます。また、AEロック（☞ P.56）も同時に行われます。

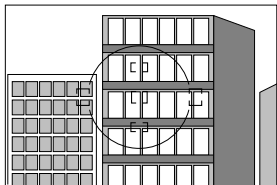
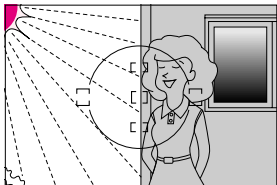
CS 21：AE／AFロックボタン AF-L AE-L を押した時に、AFロックだけ行われるように変更できます（☞ P.77）。

3 フォーカスロックを行ったまま、構図を決めて撮影します。

・フォーカスロック後は、主要被写体との撮影距離を変えないでください。
・シャッターをきった後も、シャッターボタンの半押しによるフォーカスロックを行った場合は指を離さずに、また、AE／AFロックボタン AF-L AE-L を押してフォーカスロックを行った場合は、AE／AFロックボタン AF-L AE-L を押したままシャッターボタンを押し込めば、ピントを固定したまま何度でも撮影できます。
・ピントが固定された後に被写体が動いた（撮影距離が変化した）場合は、いったんシャッターボタンやAE／AFロックボタン AF-L AE-L から指を離し、フォーカスロックを解除してからピントを合わせ直してください。

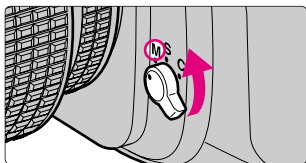
オートフォーカスが苦手な被写体について

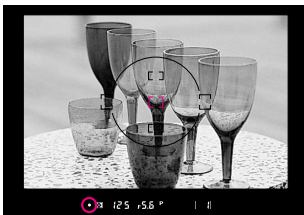
■次のような被写体では、オートフォーカスでピント合わせができない場合があります。このような場合は、M（マニュアルフォーカス☞P.45）に切り換えてマニュアルでピントを合わせるか、それぞれの被写体に表記されている方法でピント合わせを行ってください。

被写体が非常に暗い場合
- アクティブ補助光を備えたスピードライト（☞P.94）を使用し、中央のフォーカスフレームをフォーカスエリアとして選択すると、オートフォーカスによるピント合わせが可能です。

明暗差がはっきりしない場合（白壁や背景と同色の服をきている人物等）
- おおよそ同じ距離の被写体にピントを合わせてフォーカスロック（☞P.42）を行い、そのまま構図を元に戻して撮影します。

フォーカスフレーム内に遠いものと近いものが混在する被写体（オリの中の動物や木の前の人物等）
- おおよそ同じ距離の被写体にピントを合わせてフォーカスロック（☞P.42）を行い、そのまま構図を元に戻して撮影します。

連続した繰り返しパターンの被写体（ビルの窓等）

フォーカスフレーム内の被写体の輝度差が著しく異なる場合（太陽が背景に入った日陰の人物等）

マニュアルフォーカスについて

■フォーカスモードセレクトダイヤルを M にセットすれば、マニュアルフォーカス（手動）でピント合わせが行えます。

・フォーカスモードセレクトダイヤルを M（マニュアル）指標に合わせて確実にセットします。ピントはレンズの距離リングを回して、ファインダースクリーンのマット面の像がはっきり見えるように合わせます。シャッターは、合焦表示 ● の点灯、消灯にかかわらずきることができます。マニュアルフォーカスは、オートフォーカスが苦手な被写体（☞ P.44）を撮影する時や、AFニッコール以外のレンズ（☞ P.35）を装着している時にご使用ください。

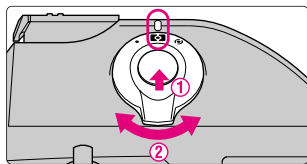
■フォーカスエイドによるピント合わせ

・フォーカスモードセレクトダイヤルを M（マニュアル）にセットした時、開放絞りがf/5.6以上明るいレンズを装着すると、ファインダー内表示の合焦表示 ● により合焦状態を確認できる「フォーカスエイドによるピント合わせ」が行えます。

・シャッターボタンを半押しして半押しタイマーが作動中にレンズの距離リングを回して合焦表示 ● を点灯させます。シャッターはいつでもきることができます。また、いずれのフォーカスフレームをフォーカスエリアとして選択してもフォーカスエイドが行えます（☞ P.39）。

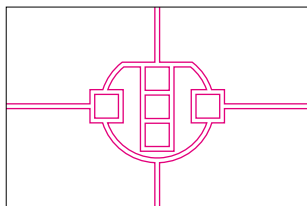
・ファインダー内表示に ▶ 表示が点灯している時は、ピントを合わせたい被写体よりも手前にピントが合っています。◀ 表示が点灯している時は、ピントを合わせたい被写体よりも後方にピントが合っています。いずれの場合も、レンズの距離リングを回して合焦表示 ● を点灯させてください。

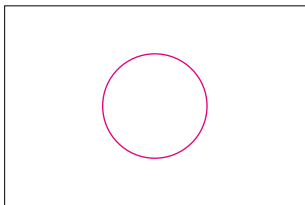
測光モードについて

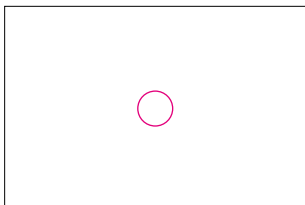
■測光モードセレクトダイヤルを切り換えることにより、3つの測光モードから被写体の光の状況に最適な測光モードを選ぶことができます。

測光モードセレクトダイヤルロックボタンを押しながら、測光モードセレクトダイヤルをセットします。

・装着レンズによっては使用できない測光モードがあります（☞ P.35）。

・測光モードの種類と特長は次のとおりです。

：10分割マルチパターン測光・3D-10分割マルチパターン測光

10分割マルチパターン測光は撮影画面を図のように10分割して、それぞれの部分を独立して測光した情報に基づいて、最適な露出値を決定します。さらにDタイプまたはGタイプニッコールレンズを装着した場合には、画面内の最大輝度、輝度差情報に加えカメラから被写体までの距離情報を加味して測光の精度を高めた、3D-10分割マルチパターン測光となります。このモードを使えば、ほとんどの被写体で適正露出を得ることができます。
ただし、AEロック（☞ P.56）や露出補正（☞ P.58）を行う時は、中央部重点測光またはスポット測光をおすすめします。

(•)：中央部重点測光

中央部重点測光はファインダー中央部（φ12mmの円内）を重点的に測光して露出値を決定しますので、φ12mmの円内の露出を基準に撮影したい場合に適しています。

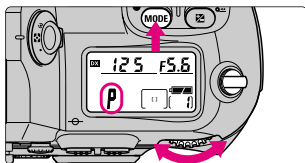
•：スポット測光

フォーカスエリアに重なるφ4mm相当（全画面の約1%）を部分的に測光して露出値を決定します。逆光時やコントラストの差が激しい時など、フォーカスエリア相当の狭い範囲での露出を基準に撮影したい場合に適しています。測光エリアは選択されているフォーカスエリアに連動するため、撮影したい構図のまま、フォーカスエリアセレクターを操作して測光エリアを変えることができます。
ただし、至近優先ダイナミックAFモード時（☞ P.41）やCPU内蔵ニッコール以外のレンズ（☞ P.34）を装着している場合は、フォーカスエリアの連動は行われず、画面中央のフォーカスフレームに相当する部分を測光します。

各露出モードによる撮影

■P：プログラムオート

撮影状況に応じて、最適露出となるようプログラム線図に従ってカメラが自動的に露出制御を行います。プログラムシフトや露出補正（☞ P.58）、オートブラケティング（☞ P.59）などの併用により、高度な撮影も楽しめます。

・CPU内蔵ニッコール装着時のみ選択できます。

1 露出モードボタン MODE を押しながら、メインコマンドダイヤルで露出モードをPにセットします。

・Gタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズの絞りリングが最小絞りにセットされていない時は、表示パネルとファインダー内表示に FEE が点滅し、シャッターがきれません。

・CPU内蔵ニッコール以外のレンズを装着すると、露出モードを自動的にA（絞り優先オート）に切り換えて制御します。この場合、露出モード表示は表示パネルには Pが点滅し、ファインダー内表示には **A** が点灯します。また、この時、表示パネルとファインダー内表示の絞り表示には F-- が点灯しますので、絞りのセットと確認はレンズの絞りリングで行ってください。

2 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

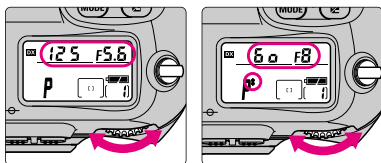
・次の警告が表示パネルやファインダー内表示に点灯した場合、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています。

・HI：ND（光量調節用）フィルターを使用してください。

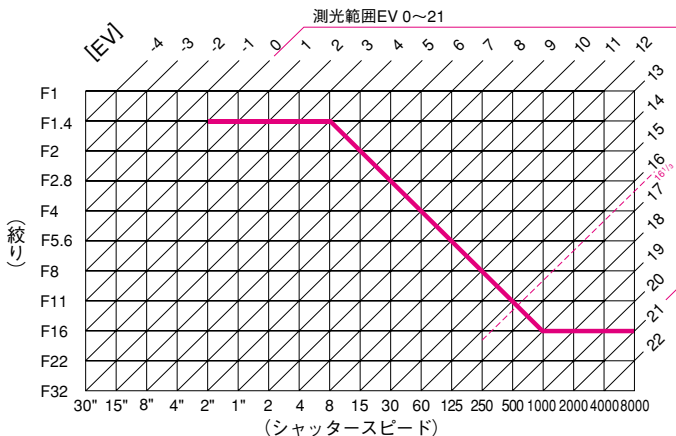
・Lo：スピードライトを使用してください。

CS 2：表示パネルとファインダー内表示に表示されるシャッタースピードと絞りのステップを1／2段または1段に変更できます（☞ P.73）。

要点　プログラムシフトについて

プログラムオートで撮影中にメインコマンドダイヤルを回すと、露出を一定にしたままシャッタースピードと絞りの組み合わせを変えることができます。この機能により、プログラムオートにセットしたままシャッター優先オートや絞り優先オートのような使い方ができます。プログラムシフト中は表示パネルにプログラムシフトマーク * が点灯します。解除は、プログラムシフトマーク * が消灯するまでメインコマンドダイヤルを回す、他の露出モードに切り換える、電源スイッチをOFFにする、ツーボタンリセット（☞ P.78）を行うなどで可能です。

［参考］プログラム線図について

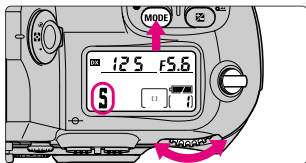
プログラム線図はプログラムオート撮影時の露出制御をグラフにしたものです。

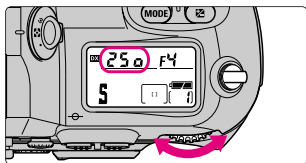
ISO100、開放絞り f/1.4・最小絞り f/16のレンズ（例：AF50mm f/1.4D）の場合

・フィルム感度に応じた測光範囲により、EV値の両端に制限があります。
・マルチパターン測光では、ISO100の時16 1/3を越えるEV値では、すべて16 1/3として制御されます。

■S：シャッター優先オート

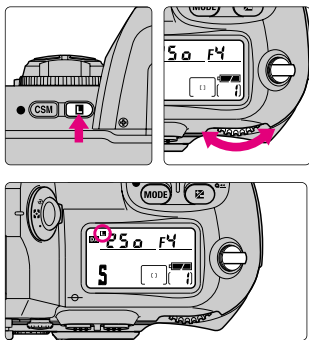
撮影者がシャッタースピード（30秒～1/8000秒）をセットすれば、絞りはカメラが自動制御します。スポーツシーンの撮影など被写体の動きを速いシャッタースピードで写し止める、または遅いシャッタースピードで強調するなど、シャッタースピードを重視した撮影に最適です。

・CPU内蔵ニッコール装着時のみ選択できます。

1 露出モードボタン MODE を押しながら、メインコマンドダイヤルで露出モードを S にセットします。

・Gタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズの絞りリングが最小絞りにセットされていない時は、表示パネルとファインダー内表示に FEE が点滅し、シャッターがきれません。
・CPU内蔵ニッコール以外のレンズを装着すると、露出モードを自動的にA（絞り優先オート）に切り換えて制御します。この場合、露出モード表示は表示パネルには S が点滅し、ファインダー内表示には **A** が点灯します。また、この時、表示パネルとファインダー内表示の絞り表示には F-- が点灯しますので、絞りのセットと確認はレンズの絞りリングで行ってください。

2 メインコマンドダイヤルでシャッタースピード（30秒～1/ 8000秒）をセットします。

CS **12**：サブコマンドダイヤルでシャッタースピードのセットが行えるように変更できます（☞ P.75）。

要点　シャッタースピードのロックについて

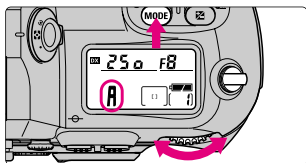
操作手順の2でセットしたシャッタースピードをロックする場合は、コマンドロックボタン L を押しながら、メインコマンドダイヤルで表示パネルとファインダー内表示にシャッタースピードロックマーク L を点灯させます。解除する時は、コマンドロックボタン L を押しながらメインコマンドダイヤルでシャッタースピードロックマーク L を消灯させてください。

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

- 次の警告がファインダー内表示や表示パネルに点灯した場合、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています（同時にオーバー、アンダーの量を示す露出インジケーターが点灯します）。
  - HI：シャッタースピードをより高速側にセットし、それでも警告表示が消えない時は、ND（光量調節用）フィルターを使用してください。
  - Lo：シャッタースピードをより低速側にセットし、それでも警告表示が消えない時は、スピードライトを使用してください。

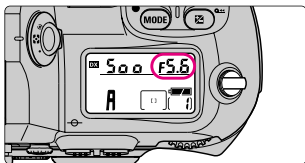
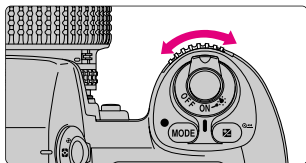
CS 2：表示パネルとファインダー内表示に表示されるシャッタースピードと絞りのステップを1／2段または1段に変更できます（☞ P.73）。

■A：絞り優先オート

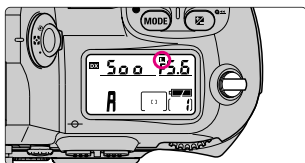
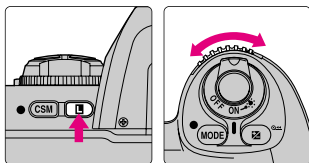
撮影者が絞り（最小絞り～開放絞り）をセットすれば、シャッタースピードはカメラが自動制御します。手前から奥まで鮮明に写す、背景をボカすなど、被写界深度（ピントの合う前後の範囲）を優先した撮影に最適です。また、スピードライト撮影時には、絞りを変えることにより調光範囲の変更も行えます（☞ P.87）。

1 露出モードボタン MODE を押しながら、メインコマンドダイヤルで露出モードを A にセットします。

・Gタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズの絞りリングが最小絞りにセットされていない時は、表示パネルとファインダー内表示に FEE が点滅し、シャッターがきれません。
・CPU内蔵ニッコール以外のレンズを装着すると、表示パネルとファインダー内表示の絞り表示には F-- が点灯しますので、絞りのセットと確認はレンズの絞りリングで行ってください。

CS 22：絞りのセットを、レンズの絞りリングでのみ行えるように変更できます（Gタイプニッコールレンズを除く ☞ P.77）。

2 サブコマンドダイヤルで絞り（最小絞り～開放絞り）をセットします。

CS 12：絞りのセットを、メインコマンドダイヤルで行えるように変更できます（☞ P.75）。

要点　絞りのロックについて

操作手順の2でセットした絞りをロックする場合は、コマンドロックボタン L を押しながら、サブコマンドダイヤルで表示パネルとファインダー内表示に絞りロックマークL を点灯させます。解除する時は、コマンドロックボタン L を押しながらサブコマンドダイヤルで絞りロックマークL を消灯させてください。

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

・次の警告が表示パネルやファインダー内表示に点灯した場合、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています（同時にオーバー、アンダーの量を示す露出インジケーターが点灯します）。

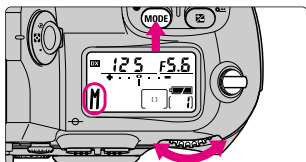
・HI：より大きい数値の絞りにし、それでも警告表示が消えない時は、ND（光量調節用）フィルターを使用してください。

・Lo：より小さい数値の絞りにし、それでも警告表示が消えない時は、スピードライトを使用してください。

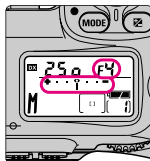
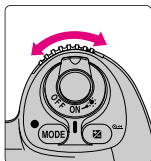
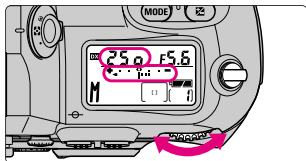
CS 2：表示パネルとファインダー内表示に表示されるシャッタースピードと絞りのステップを1／2段または1段に変更できます（☞ P.73）。

■M：マニュアル

シャッタースピード（bulbおよび30秒～1/8000秒）も絞り（最小絞り～開放絞り）も、撮影者が自由にセットできるので、ファインダー内の露出インジケーターを見ながら、撮影状況や目的に合わせた露出決定ができます。長時間露出（バルブ）もこのモードでセットします。

1 露出モードボタン MODE を押しながら、メインコマンドダイヤルで露出モードをMにセットして、構図を決めます。

・Gタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズの絞りリングが最小絞りにセットされていない時は、表示パネルとファインダー内表示に FEE が点滅し、シャッターがきれません。
・CPU内蔵ニッコール以外のレンズを装着すると、表示パネルとファインダー内表示の絞り表示には F-- が点灯しますので、絞りのセットと確認はレンズの絞りリングで行ってください。

CS 22：絞りのセットを、レンズの絞りリングでのみ行えるように変更できます（Gタイプニッコールレンズを除く ☞ P.77）。

2 露出インジケーターを確認しながら、シャッタースピードと絞りをセットします。

・シャッタースピード（bulbおよび30秒～1/8000秒）はメインコマンド

ダイヤルでセットし、絞り（最小絞り～開放絞り）はサブコマンドダイヤルでセットします（どちらを先にセットしてもかまいません）。
・シャッタースピードを bulb にセットすると長時間露出（バルブ）撮影（☞ P.64）となります。
・シャッタースピードを1／250秒にセットすれば、裏ぶたを開けたままでシャッターがきれます。
・セットしたシャッタースピードと絞りはそれぞれロックできます。シャッタースピードのロック方法はP.51の「シャッタースピードのロックについて」を、絞りのロック方法はP.53の「絞りのロックについて」をご覧ください。

CS 12：シャッタースピードのセットをサブコマンドダイヤルで、絞りのセットをメインコマンドダイヤルで行えるように変更できます（☞ P.75）。

CS 2：セットするシャッタースピードと絞りのステップを1／2段または1段に変更できます（☞ P.73）。

要点　露出インジケーターについて

露出インジケーターの見方は以下のとおりです（例：表示パネル）。
カメラの測光限界を超えると、露出インジケーターが点滅警告します。

露出値のステップが1/3段の場合	露出値のステップが1/2段の場合	露出値のステップが1段の場合
適正露出の状態	適正露出の状態	適正露出の状態
2/3段アンダーの状態	1/2段アンダーの状態	1段アンダーの状態
2段以上オーバーの状態	3段以上オーバーの状態	3段以上オーバーの状態

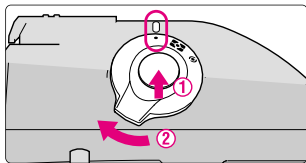
3 ピントを合わせて撮影します。

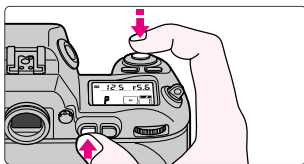
要点　AFマイクロレンズ装着時の露出倍数について

AFマイクロレンズをこのカメラに装着して、外部露出計の測光値を参考に絞りをサブコマンドダイヤルでセットする場合、露出倍数を考慮する必要はありません。レンズの絞りリングでセットする場合のみ、露出倍数を考慮した補正が必要となります。

AEロック撮影

■AEロック撮影は、撮影画面内の露出を合わせたい部分をスポット測光などにより測光し、AE／AFロックボタン AF-L AE-L を押してその露出をカメラに記憶させ、そのまま構図を変えて撮影する方法です。露出モードはM（マニュアル）以外にセットしてください。

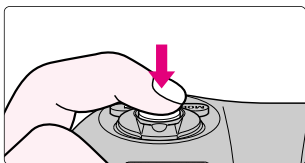
1 測光モードをスポット測光または中央部重点測光にセットします。

・十分なAEロックの効果が期待できないため、マルチパターン測光はおすすめできません。

2 露出を合わせたい部分にフォーカスエリアを重ね、シャッターボタンを半押ししたままAE／AFロックボタン AF-L AE-L を押して、合焦表示●の点灯を確認します。

・AE／AFロックボタン AF-L AE-L を押すと、測光モードに応じた部分の露出が記憶（ロック）され、構図を変えても露出は変わりません。
・AE／AFロックボタン AF-L AE-L を押すと、ファインダー内にAEロック表示 **EL** が点灯します。
  1. スポット測光で、測光エリアとフォーカスエリアが連動する条件の時（☞ P.47）、選択してあるフォーカスエリアを重ねた部分の露出が記憶されます。
  2. スポット測光で、測光エリアとフォーカスエリアが連動しない時（☞ P.47）、は画面中央のフォーカスフレームに相当する部分の露出が記憶されます。

3. 中央部重点測光の時は中央部φ12mmの円内の露出が記憶されます。

・フォーカスモードがシングルAFサーボ（AF-S）または コンティニュアスAFサーボ（AF-C）の場合、フォーカスロック（☞ P.42）も同時に行われますので、合焦表示●の点灯も確認してください。

CS 21：AE／AFロックボタン AF-L AE-L を押した時に、AEロックだけ行われるように変更できます（☞ P.77）。

3 AE／AFロックボタン AF-L AE-L を押したまま、構図を決めて撮影します。

・AE／AFロックボタン AF-L AE-L を押している間も次の操作が可能です。
1. 露出モードがP（プログラムオート）の場合は、プログラムシフト（☞ P.49）が可能です。
2. 露出モードがS（シャッター優先オート）の場合は、シャッタースピードの変更が可能です。
3. 露出モードがA（絞り優先オート）の場合は、絞りの変更が可能です。
いずれも、変更した後の露出表示はそれぞれ制御されるシャッタースピード、絞りが表示されます。

・AEロック中は、測光モードセレクトダイヤルを切り換えても測光モードは変わりません（AEロックを解除すれば変わります）。

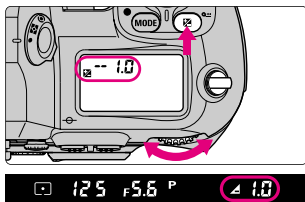
CS 7：シャッターボタンの半押しでAEロックが行えるように変更できます（☞ P.74）。

CS 21：AE／AFロックボタン AF-L AE-L を押すと指を離してもAEロックの状態が保持され、再度AE／AFロックボタン AF-L AE-L を押すと解除されるように変更できます（☞ P.77）。

測光・露出

露出補正

■露出補正とは、カメラが表示する適正露出値を意図的に変えることをいいます。たとえば、被写体にコントラストの強いものがある場合、カラースライド撮影など適正露出の許容範囲（ラチチュード）が小さい時に段階的に露出をずらして撮影する場合などに使用します。測光モードは中央部重点測光またはスポット測光をおすすめします。いずれの露出モードでもセット可能です。

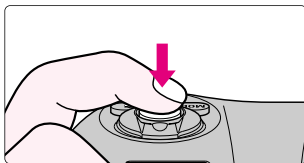
1 露出補正ボタン ⊠ を押しながら、メインコマンドダイヤルで補正量（1/3段ステップで±5段）をセットします。

・露出補正インジケーターの表示例

−0.3段補正

＋2段補正

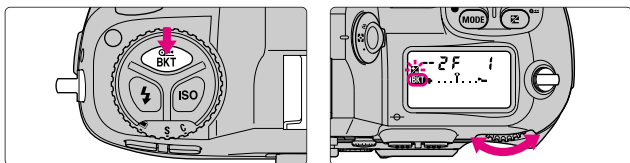
・補正量をセットすると、表示パネルとファインダー内表示に露出補正マーク ⊠ が点灯します。補正量の確認は露出補正ボタンを押すだけで行えます。
・露出インジケーターが露出補正インジケーターとして表示されます。その際、露出インジケーターの 0 は点滅します。
・補正の目安としては、被写体（たとえば人物など）に対して、背景が明るい場合は＋側に、背景が暗い場合は−側に補正するのが基本です。

CS 2：露出補正量のステップを1／2段または1段に変更できます（☞ P.73）。
CS 13：コマンドダイヤルの操作だけで、露出補正が行えます（☞ P.75）。

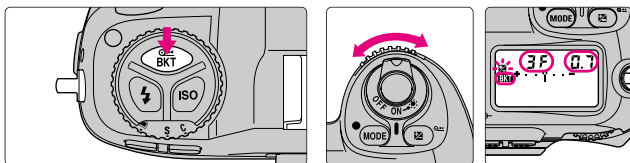
2 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

・露出補正を解除する場合は、露出補正ボタン ⊠ を押しながら、メインコマンドダイヤルで補正量を0.0にセットするか、ツーボタンリセット（☞ P.78）を行ってください（電源スイッチをOFFにしても解除されません）。

オートブラケティング（自動段階露出）

■オートブラケティングをセットすれば、シャッターをきるごとにカメラが表示する適正露出値（露出モードがマニュアルの場合は撮影者がセットした露出値）に対して、自動的にセットした撮影枚数（最大3枚）と補正ステップで露出をずらした（露出補正なしで最大±2段）撮影が行えます。いずれの露出モードでもセット可能です。

1 オートブラケティングボタン BKT を押しながら、メインコマンドダイヤルでブラケティングマーク BKT を点灯させます。

・露出モードがP（プログラムオート）の時はシャッタースピードと絞りが、S（シャッター優先オート）の時は絞りが、A（絞り優先オート）とM（マニュアル）の時はシャッタースピードが変化します。
・いずれの露出モードでも、スピードライト使用時は、スピードライトで照らされた主要被写体のTTL調光レベル（SBブラケティング）と、定常光で照らされている背景の露出（AEブラケティング）の両方に補正が行われます。

CS 11：通常はAEブラケティングとSBブラケティングが同時に行なわれますが、それぞれAEブラケティングのみ、SBブラケティングのみに変更できます（☞ P.75）。

2 オートブラケティングボタン BKT を押しながら、サブコマンドダイヤルで撮影枚数と補正ステップをセットします。

・撮影枚数と補正ステップの組み合わせは、次ページをご覧ください。

CS 2：セットする補正ステップを1／2段または1段に変更できます（☞ P.73）。

・オートブラケティングボタン BKT を押しながらサブコマンドダイヤルを回すごとに、表示は次のように変化します（カスタムセッティングで補正ステップをそれぞれ1／3段、1／2段、1段に変更した場合）。

1. 1／3段ステップの場合

撮影枚数と補正ステップ	露出インジケーター	撮影順序
−2F 1.0	+ . . . I . . .▸−	0／-1.0
−2F 0.7	+ ˙ ˙ ı ˙ ˙▸−	0／-0.7
−2F 0.3	+ ˙ ˙ ı ˙ ˙▸−	0／-0.3
+2F 1.0	+◂. . . I . . . −	0／+1.0
+2F 0.7	+◂˙ ˙ ı ˙ ˙ −	0／+0.7
+2F 0.3	+◂˙ ˙ ı ˙ ˙ −	0／+0.3
−3F 1.0	+ . . . I . ! .▸−	-1.0／-2.0／0
−3F 0.7	+ ˙ ˙ ı ¡ ˙▸−	-0.7／-1.3／0
−3F 0.3	+ ˙ ˙ ı ¡ ˙▸−	-0.3／-0.7／0
+3F 1.0	+◂. ! . I . . . −	+1.0／0／+2.0
+3F 0.7	+◂˙ ¡ ı ˙ ˙ −	+0.7／0／+1.3
+3F 0.3	+◂˙ ¡ ı ˙ ˙ −	+0.3／0／+0.7
3F 1.0	+◂. . . I . . .▸−	0／-1.0／+1.0
3F 0.7	+◂˙ ˙ ı ˙ ˙▸−	0／-0.7／+0.7
3F 0.3	+◂˙ ˙ ı ˙ ˙▸−	0／-0.3／+0.3

2. 1／2段ステップの場合

撮影枚数と補正ステップ	露出インジケーター	撮影順序
−2F 1.0	+ . . . I . . .▸−	0／-1.0
−2F 0.5	+ . . . I . . .▸−	0／-0.5
+2F 1.0	+◂. . . I . . . −	0／+1.0
+2F 0.5	+◂. . . I . . . −	0／+0.5
−3F 1.0	+ . . . I . ! .▸−	-1.0／-2.0／0
−3F 0.5	+ . . . I . ! .▸−	-0.5／-1.0／0
+3F 1.0	+◂. ! . I . . . −	+1.0／0／+2.0
+3F 0.5	+◂. ! . I . . . −	+0.5／0／+1.0
3F 1.0	+◂. . . I . . .▸−	0／-1.0／+1.0
3F 0.5	+◂. . . I . . .▸−	0／-0.5／+0.5

3. 1段ステップの場合

撮影枚数と補正ステップ	露出インジケーター	撮影順序
−2F 1.0	+ . . . I . . .▸−	0／-1.0
＋2F 1.0	+◂. . . I . . . −	0／+1.0
−3F 1.0	+ . . . I . ! .▸−	-1.0／-2.0／0
＋3F 1.0	+◂. ! . I . . . −	+1.0／0／+2.0
3F 1.0	+◂. . . I . . .▸−	0／-1.0／+1.0

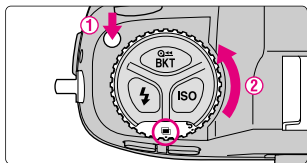
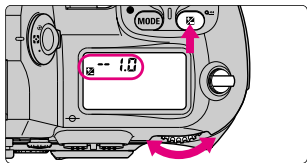
3 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

- 撮影中はシャッタースピードと絞りも補正された値が表示されます。
- 解除はオートブラケティングボタン BKT を押しながら、メインコマンドダイヤルで表示パネルのブラケティング表示 BKT を消灯させます。ただし、この場合でもセットした撮影枚数と補正ステップは保持されます。
- オートブラケティングと露出補正（☞ P.58）が同時にセットしてある場合、両方の補正値が加算されたオートブラケティング撮影が行えます。±2段を超えるオートブラケティング撮影を行う場合に便利です。
- フィルム給送モードをC（連続巻き上げ）、Cs（低速連続巻き上げ）にセットし撮影している場合、シャッターボタンを押し続けると、セットした枚数が終了した時点でいったん自動的に停止します。
- 撮影中に撮影フィルムが終端になった場合、フィルム交換後に残りの撮影が行えます。また、撮影中に電源スイッチをOFFにした場合も再びONにすれば残りの撮影が行えます。
- セルフタイマー撮影時（☞ P.69）には、セットした撮影枚数のオートブラケティング撮影が1枚ずつ行われます。

CS 3：マイナス側からプラス側へ順番に撮影されるように変更できます（☞ P.73）。

多重露出撮影

■多重露出撮影では、フィルムの同一コマ上に画像を何回も重ねて撮影することができます。いずれの露出モードでもセット可能です。

1 給送モードセレクトダイヤルロックボタンを押しながら、給送モードセレクトダイヤルを多重露出 にセットします。

2 撮影状況に応じて、露出補正ボタン を押しながら、メインコマンドダイヤルで補正量をセットします。

・多重露出はフィルムの同一コマ上に何度も露出を与えますので、背景や被写体が重なっていく場合、多重露出の回数に応じた露出補正を撮影前に行う必要があります。
・一般的な補正量の目安は次のとおりです。

多重露出の回数	補正量のセット
2回	-1.0
3回	-1.5
4回	-2.0
8〜9回	-3.0

・実際の補正量は条件によって変わりますので、テスト撮影をおすすめします。
・背景が完全に黒く、被写体が画面内で重ならないような場合は、露出補正を行わず、各露出ごとに適正露出で撮影するのが基本です。
・多重露出の際、画面がわずかにずれることがあります。特にフィルムの最初と最後のコマはフィルムの巻きぐせがありますので、おすすめできません。

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

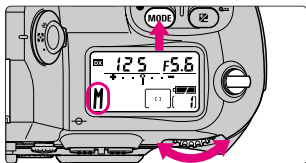
・シャッターボタンを押すと1回目の露光が行われます。フィルムの給送は行われず、2回目にシャッターボタンを押すと多重露出撮影となります。
・給送モードセレクトダイヤルを多重露出 ▣ にセットしてある間は、フィルムカウンターのカウントアップは行われません。
・解除する時は、給送モードセレクトダイヤルを多重露出 ▣ 以外にセットしてください。このとき、半押しタイマーがONになっていれば、フィルムは給送されます。半押しタイマーがOFFになっているときは、シャッターボタンを半押しするとフィルムは給送されます。フィルムが給送されるとフィルムカウンターがカウントアップされます。

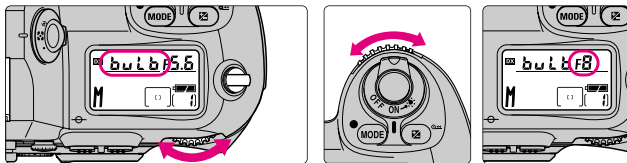
CS 14：通常、多重露出撮影はシャッターボタンを押すごとに1回シャッターがきれる1コマ撮影ですが、連続撮影に変更できます（☞ P.75）。

測光・露出

長時間露出撮影

■長時間露出は夜景や天体撮影など、30秒を超えるシャッタースピードで撮影したい時に便利です。シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになります（三脚のご使用をおすすめします）。

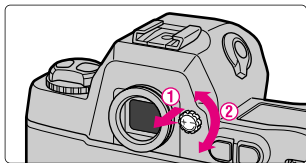
1 露出モードボタン MODE を押しながら、メインコマンドダイヤルで露出モードをM（マニュアル）にセットします。

・イルミネーター（☞ P.65）を使用すると、夜景や天体の撮影時、暗い所で表示パネルの確認が行いやすくなります。

2 メインコマンドダイヤルでシャッタースピードを bulb にセットし、サブコマンドダイヤルで絞りをセットします。

・露出モードをM（マニュアル）にして bulb にセットした後、S（シャッター優先オート）にセットすると、 bulb 表示が点滅してシャッターはきれません。
・連続撮影可能時間は、新品アルカリ乾電池を使用して約4時間、新品リチウム電池を使用して約7時間です。ただし、低温時には電池の性能が低下しますので短くなります。

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

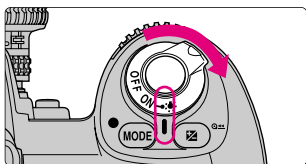
・シャッターボタンを押すと、押している間はシャッターが開いたままとなります。
・シャッターボタンを指で押し続けるかわりに、リモートコード（別売り☞ P.96）を使用すると手ブレを軽減できます。

視度調節機能／イルミネーターについて

■視度調節機能により、ファインダー内の像を見やすくできます。

・視度調節ノブを引き上げ、ファインダーをのぞきながらファインダー内のフォーカスフレームが最もシャープに見える位置まで回します。視度調節は－3.0～＋1.0m⁻¹（近視～遠視）の間で可能です。また、別売りの接眼補助レンズは－5.0～＋3.0m⁻¹の間で9種類が用意されています。

☞ 注意　視度調節ノブを回す際のご注意

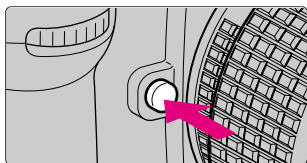
ファインダーをのぞきながら視度調節ノブを回す際、目に近い位置での操作となりますので、指先やつめで目を傷つけないように注意してください。

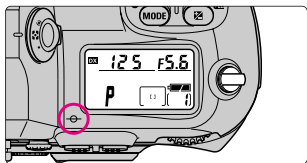
■イルミネーターを点灯させると、暗い所で表示パネルの表示が確認しやすくなります。

・電源スイッチをイルミネーター まで回すと、半押しタイマーが作動するとともに表示パネルにブルーグリーンのイルミネーターが点灯します。
・電源スイッチは指を離すと元の位置に戻りますが、イルミネーターは半押しタイマーの作動中は点灯し続けます。ただし、シャッターをきった直後には消灯します。

CS 17：イルミネーターが、各ボタンの操作と同時に点灯するように変更できます（☞ P.76）。

測光・露出
構図

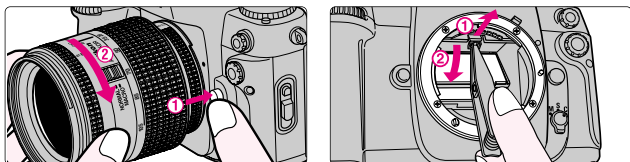
プレビューボタン／距離基準マークについて

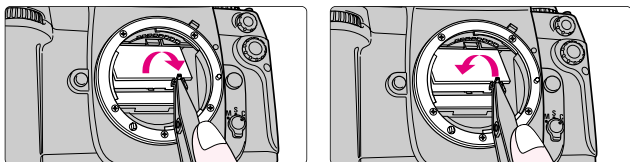
■プレビューボタンを押すと、カメラのファインダーをのぞいて被写界深度（ピントの合う前後の範囲・P.70）が確認できます。

・プレビューボタンを押し続けると、露出モードが P（プログラムオート）、S（シャッター優先オート）の時は制御される絞りまで、露出モードがA（絞り優先オート）、M（マニュアル）の時はセットしてある絞りまで、レンズの絞り羽根が絞り込まれます。この状態でファインダーをのぞくと、その時の絞りのおおよその被写界深度（ピントの合う前後の範囲）が確認できます。

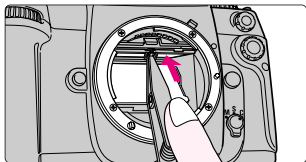
■距離基準マークは、カメラ内のフィルム面の位置を示しています。

・距離基準マークは撮影距離の基準となるマークで、カメラ内のフィルム面の位置を示しています。接写などでカメラから被写体までの距離を実測する場合、このマークが基準となります。
・レンズ取り付け面（レンズマウント）からフィルム面までの寸法（フランジバック）は46.5mmです。

ファインダースクリーンの交換

■このカメラにはB型クリアマットスクリーンが装着されていますが、構図決定に役立つE型方眼マットスクリーン（別売り ☞ P.91）に交換できます。

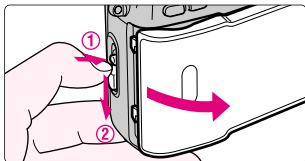
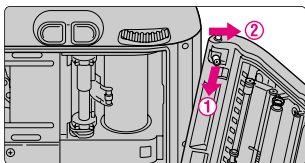
1 カメラからレンズを取り外し、スクリーン交換レバーを専用ピンセットで手前に引きます。

・スクリーン交換レバーを専用ピンセットで手前に引くと、ファインダースクリーンが枠ごと下がります。

2 ファインダースクリーンの突起部をピンセットではさんで取り出し、装着するファインダースクリーンを枠に載せます。

・ファインダースクリーンは確実に枠の上に載せてください。

3 カチッと音がするまで枠を押し上げ、ファインダースクリーンを固定します。

・ファインダースクリーン交換の際は、カメラのミラーやファインダースクリーン面に触れないようにしてください。
・ファインダースクリーンは必ずF100専用のものを使用してください（他機種のファインダースクリーンは使用できません）。

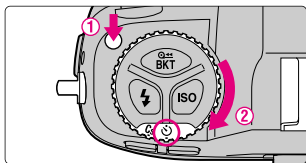
裏ぶたの交換（データバックMF-29）

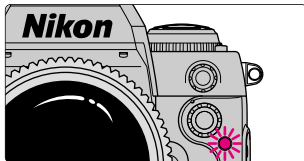
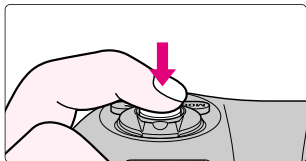
■裏ぶたを別売りのデータバックMF-29（☞ P.93）と交換する場合、次のように行ってください（フィルム確認窓でフィルムが装てんされていないことを確認してください）。

1 裏ぶたロックボタンを押しながら、裏ぶたロックレバーをスライドさせて裏ぶたを開けます。

2 裏ぶた着脱ピンを指先で押し下げながら、裏ぶたを右下に傾けて取り外します。

・接点やフィルム押さえローラー、フィルム圧板などに触れないように注意してください。これらにゴミや汚れがあると、フィルムを傷つけたり、裏ぶたとカメラボディ間の通信が正常に行われずに故障の原因となることがあります。
・取り付けは、取り外しの逆の順序で行えます。詳細はデータバックMF-29の使用説明書をご覧ください。

セルフタイマー撮影

■セルフタイマーは記念写真など、撮影者自身も一緒に写りたい時などに便利です。三脚等を使用し、カメラを安定させてから行ってください。

1 給送モードセレクトダイヤルロックボタンを押しながら、給送モードセレクトダイヤルをセルフタイマー ⓢ にセットします。

・フォーカスモードがシングルAFサーボ（AF-S）でピントが合っていない時など、カメラのシャッターがきれない状態ではセルフタイマーは作動しません。
・適正露出に影響を与える接眼部からの逆入光を防ぐため、M（マニュアル）以外の露出モードで撮影する場合は、シャッターボタンを押す前に手または付属のアイピースキャップ（☞ P.3）で接眼部を覆ってください。
・AF（オートフォーカス）でピントを合わせる場合は、セルフタイマーを作動させる時にレンズを体で覆わないように注意してください。

2 構図を決め、ピントを合わせてシャッターボタンを押します。

・作動を開始すると、セルフタイマー表示LEDが8秒間点滅、2秒間点灯して合計10秒後にシャッターがきれます。
・解除するには、給送モードセレクトダイヤルをセルフタイマー ⓢ 以外にセットしてください。
・露出モードがM（マニュアル）で、シャッタースピードが bulb にセットされている時は、約1／10秒でシャッターがきれます。

CS 16：セルフタイマーの作動時間を2秒、5秒、20秒のいずれかに変更できます（☞ P.76）。

構図
撮影

コラム：被写界深度・予測駆動フォーカス

このカメラはオートフォーカス機能を搭載しており、ピント合わせをカメラまかせにして撮影が行えますが、ここでは、ピントと被写界深度の関係や予測駆動フォーカスについての基礎知識をご説明します。

被写界深度

一点にピントを合わせると、その前後にもピントの合う範囲があります。このピントの合う範囲を被写界深度といい、撮影距離、レンズの焦点距離、絞りなどによって変化します。
特にレンズの絞りは、絞る（大きい数値にする）とピントの合う範囲が前後に広くなり、これを被写界深度が深いといいます。逆にレンズの絞りを開く（小さい数値にする）とピントの合う範囲が前後に狭くなり、これを被写界深度が浅いといいます。
また、他の条件が同じであれば撮影距離が近いほど、レンズの焦点距離が長いほど被写界深度が浅くなり、その逆に撮影距離が遠いほど、レンズの焦点距離が短いほど被写界深度が深く、さらにピントの合った点の手前に浅く、奥に深くなります。

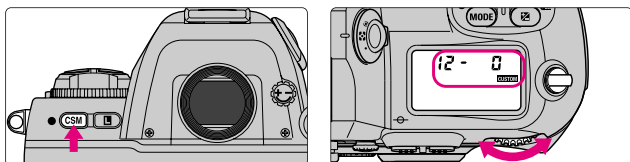
予測駆動フォーカスについて

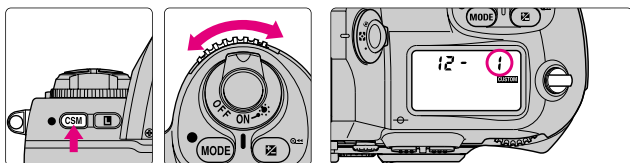
フォーカスモードセレクトダイヤルをS（シングルAFサーボ）またはC（コンティニュアスAFサーボ）にセットして、シャッターボタンを半押しまたはAF作動ボタンを押し続けてピント合わせを行っている時、動いている被写体をカメラが認識すると、このカメラは自動的に予測駆動フォーカスに切り換わります。
予測駆動フォーカス作動時は、被写体がカメラに向かって近づいてくる場合や、遠ざかっていく場合に、シャッターがきれる時点での被写体の到達位置を予測しながらピントを追い続けます。
S（シングルAFサーボ）の場合は、初めから動いている被写体には予測駆動フォーカスが作動し、被写体が静止した時にピントはそこでロックされます。C（コンティニュアスAFサーボ）の場合は途中から動き出した被写体に対しても予測駆動フォーカスに切り換わり、被写体が静止してもピントはロックされることはありません。

カスタムセッティング

カスタムセッティングにより、
カメラの各機能の働きやセット内容を
撮影者自身の好みにあった状態に変更できます。

■カスタムセッティングのセット方法

1 カスタムセッティングボタン CS を押しながら、メインコマンドダイヤルでメニューナンバーを選択します。

・メニューナンバーは22種類（1～22）あります。

2 カスタムセッティングボタン CS を押したまま、サブコマンドダイヤルで表示パネルに希望するセット内容の数字または文字を点灯させます。

・希望するセット内容の数字または文字を点灯させてカスタムセッティングボタン CS から指を離すと、表示パネルにカスタムセッティング表示 CUSTOM が点灯します。
・全てのカスタムセッティングを解除して初期値に戻したい場合は、P.78をご覧ください。

■メニューナンバーとカスタムセッティングの内容

1.フィルム終端時の自動巻き戻し ☞ P.31

［セット内容］0：しない（初期値）
　　　　　　　1：する

通常は2つのフィルム巻き戻しボタンの操作により巻き戻しが開始されますが、カメラがフィルムの終端を判断して、自動的に巻き戻しを開始するように変更できます。

2.露出値（シャッタースピード・絞り・露出補正値・オートブラケティング補正ステップ）のステップ幅の変更 ☞ P.48〜55/58〜61

［セット内容］3：1／3段（初期値）
　　　　　　　2：1／2段
　　　　　　　1：1段

通常は1／3段で露出値（シャッタースピード・絞り・露出補正値）を表示またはセットできますが、これを1／2段または1段に変更できます。

3.オートブラケティング撮影時の補正順序の変更 ☞ P.60

［セット内容］0：初期設定の順（P.60をご覧ください）
　　　　　　　1：マイナス側からプラス側へ

通常は初期設定の順（☞ P.60）で撮影されますが、マイナス側からプラス側へ順番に撮影されるように変更できます。

4.シャッターボタンの半押し操作によるAFレンズ駆動 ☞ P.38

［セット内容］0：する（初期値）
　　　　　　　1：しない

通常はシャッターボタンを半押しするとAFレンズが駆動してピント合わせを行いますが、AF作動ボタンの操作でのみAFレンズが駆動してピント合わせを行うように変更できます。

5.DXマークがないフィルム装てん時の警告表示 ☞ P.23/36

［セット内容］0：フィルムの空送り後（初期値）
　　　　　　　1：電源スイッチがONの時

通常はカメラのフィルム感度をDXにセットしてDXマークがないフィルムを装てんするとフィルムを1コマ目まで空送りした後に警告を行いますが、その警告を電源スイッチがONであれば行うように変更できます。

6.フォーカスエリアの選択を循環方式に変更 ☞ P.39

［セット内容］0：しない（初期値）
1：する

フォーカスエリアセレクターの右を押すと右方向に、左を押すと左方向に、上を押すと上方向に、下を押すと下方向にそれぞれフォーカスエリアを連続的に循環させることができます。これによりフォーカスエリアセレクターの押す位置を変えることなく反対側のフォーカスエリアの選択が可能になります。

7.シャッターボタン半押しによるAEロック ☞ P.57

［セット内容］0：しない（初期値）
1：する

通常はAEロックボタン AE-L を押した時にAEロックが行われますが、シャッターボタンを半押しした時にAEロックが行われるように変更できます。

8.裏ぶたを閉じるとフィルムの空送りが開始（電源ONの時） ☞ P.23

［セット内容］0：しない（初期値）
1：する

通常は フィルムを入れ、裏ぶたを閉じてシャッターボタンを押すとフィルムが1コマ目まで空送りされますが、裏ぶたを閉じることで空送りされるように変更できます。

9.S（シングルAFサーボ）での至近優先ダイナミックAF ☞ P.41

［セット内容］0：する（至近優先ダイナミックAF・初期値））
1：しない

通常は、ダイナミックAFモード時にフォーカスモードセレクトダイヤルをS（シングルAFサーボ）にセットすると至近優先ダイナミックAF（☞ P.41）となりますが、至近優先ダイナミックAFにならないように変更できます。

10.C（コンティニュアスAFサーボ）での至近優先ダイナミックAF ☞ P.41

［セット内容］0：しない（初期値）
1：する（至近優先ダイナミックAF）

通常は、ダイナミックAFモード時にフォーカスモードセレクトダイヤルをC（コンティニュアスAFサーボ）にセットしても至近優先ダイナミックAF（☞ P.41）にはなりませんが、至近優先ダイナミックAFになるように変更できます。

11. AE・SBブラケティングの同時セット、単独セット ☞ P.59

［セット内容］AS：AE・SBブラケティングの同時セット（初期値）
AE：AEブラケティングのみのセット
Sb：SBブラケティングのみのセット

通常のオートブラケティングセット時には、AEブラケティングとSBブラケティングが同時にセットされますが、AEブラケティングのみのセット、SBブラケティングのみのセットに変更できます。

12. コマンドダイヤルの変更 ☞ P.50〜55

［セット内容］0：しない（初期値）
1：する

通常のコマンドダイヤル操作とは逆に、サブコマンドダイヤルでシャッタースピードのセット（S［シャッター優先オート］、M［マニュアル］時）、メインコマンドダイヤルで絞りのセット（A［絞り優先オート］、M［マニュアル］時）が行えるように変更できます。

13. 露出補正簡易設定 ☞ P.58

［セット内容］0：しない（初期値）
1：する

露出補正ボタンを押さなくても、P（プログラムオート）時、S（シャッター優先オート）時はサブコマンドダイヤル、A（絞り優先オート）時はメインコマンドダイヤルのみで露出補正（1／3段ステップで±5段）が行えるように変更できます。

・カスタムセッティングの2で露出値のステップ変更を行っている場合は、1／2段ステップまたは1段ステップで±5段まで露出補正が可能です。
・カスタムセッティングの12でコマンドダイヤルの変更を行っている場合は、それぞれ操作するダイヤルがP（プログラムオート）時を除き逆になります。

14. 多重露出撮影時の撮影方法の変更 ☞ P.63

［セット内容］0：1コマ撮影（初期値）
1：連続撮影

通常は、多重露出撮影時はシャッターボタンを押すごとに1回シャッターがきれる1コマ撮影となりますが、連続撮影に変更できます。

15.半押しタイマーの作動時間の変更 ☞ P.19

［セット内容］4：4秒　　8：8秒
　　　　　　6：6秒（初期値）　16：16秒

通常は、電源スイッチをONにした時やシャッターボタンを半押しした時の半押しタイマーの作動時間は6秒ですが、4秒、8秒、16秒のいずれかに変更できます（半押しタイマーを延長すると電池を消耗しますので、フィルムの撮影可能本数が少なくなります）。

16.セルフタイマーの作動時間の変更 ☞ P.69

［セット内容］2：2秒　　10：10秒（初期値）
　　　　　　5：5秒　　20：20秒

通常は、セルフタイマーの作動時間は10秒ですが、2秒、5秒、20秒のいずれかに変更できます。

17.各ボタンの操作によるイルミネーターの点灯 ☞ P.65

［セット内容］0：しない（初期値）
　　　　　　1：する

通常は電源スイッチをイルミネーター ☀ まで回すとイルミネーターが点灯しますが、各ボタンの操作によって点灯するように変更できます。

18.0コマ目のデータ（年月日時分）写し込み ☞ P.93

［セット内容］0：しない（初期値）
　　　　　　1：する

データバックMF-29（別売り）で写し込み時、0コマ目にもデータ（年月日時分）の写し込みが行えます。データを0コマ目のみに写し込み、1コマ目以降の各画面への写し込みを行いたくないときは、フィルム装てん時の空送り終了後、MF-29の写し込みを解除してください。

19.絞りの制御方法 ☞ P.52～55

［セット内容］0：絞りの維持（初期値）
　　　　　　1：絞り段数維持

マイクロレンズ使用時にレンズを繰り出した場合、または焦点距離によって開放絞りが変化するズームレンズでズーミングをした場合、通常はサブコマンドダイヤルによってセットした絞りそのものを維持しますが、開放絞りからの絞り段数を維持するように変更できます（露出モードがA［絞り優先オート］またはM［マニュアル］の時）。

例：AFニッコールレンズ70～210mm f/4～5.6を装着し、70mmで絞りをf/8（開放絞りf/4から2段目）にセットして210mmにズーミングした時、「0：絞り維持」にセットしておくと絞りはf/8のままになり、「1：絞り段数維持」にセットしておくと、210mm時の開放絞りf/5.6からの絞り段数である2段を維持して、絞りはf/11に変化します。

20. セルフタイマー表示LEDによるレリーズの確認

［セット内容］0：しない（初期値）
1：する

通常は、セルフタイマー撮影時以外ではセルフタイマー表示LEDは点灯しませんが、通常撮影時でもシャッターがきれる直前にセルフタイマー表示LEDが点灯するように変更できます。

21. AE／AFロックボタン操作による同時ロック、単独ロック、AEロックの維持

☞ P.43/56

［セット内容］0：AE・AFの同時ロック（初期値）
1：AEロックのみ
2：AFロックのみ
3：AEロックの維持

通常は、AE／AFロックボタン AF-L AE-L を押した時にAEロックとAFロックが同時に行われますが、AEロックのみ行われる、AFロック（フォーカスロック）のみ行われる、または AE／AFロックボタン AF-L AE-L を押すとAEロック状態を維持し再度AE／AFロックボタン AF-L AE-L を押すと解除される、のいずれかに変更できます。

22. レンズの絞りリングによる絞りセット ☞ P.52～55

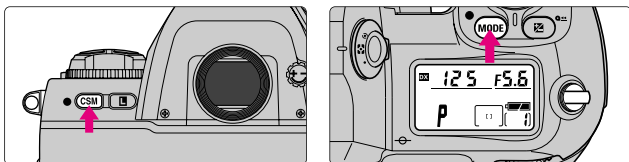
［セット内容］0：しない（初期値）
1：する

通常はA（絞り優先オート）、M（マニュアル）時はサブコマンドダイヤルで絞りのセットを行いますが、レンズの絞りリングでのみ絞りのセットが行えるように変更できます（Gタイプニッコールレンズを除く）。

・絞りの表示は1段になり、カスタムセッティングの 12でコマンドダイヤルの変更を行っても、絞りのセットはレンズの絞りリングでのみ可能となります。

ツーボタンリセット

■ツーボタンリセットにより、簡単に各機能の働きやカメラ各部のセット状態を初期状態に戻すことができます。

カスタムセッティングボタン CS と、露出モードボタン MODE を同時に2秒以上押し続けます。

・ツーボタンリセットを行うと、各機能の働き・セット状態は次のようになります。

機能	状態
フォーカスエリア	中央
露出モード	プログラムオート
プログラムシフト	（解除）
シャッタースピードロック	（解除）
絞りロック	（解除）
露出補正	（解除）
AEロック	（解除）
オートブラケティング	（解除）
シンクロモード	先幕シンクロ

■カスタムセッティングの解除について

・カスタムセッティングが行われている場合は、ツーボタンリセットを行うと表示パネルのカスタムセッティング表示 CUSTOM が2秒間点滅します。この間に、押している2つのボタンのいずれかからいったん指を離し、再度同じボタンを押し込むと、カスタムセッティングがすべて解除され初期値に戻ります（☞ P.72）。

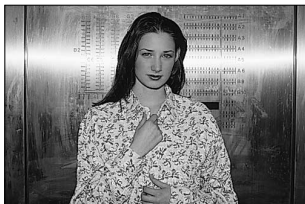
スピードライト撮影

別売りスピードライトを装着すれば
マルチエリアBL調光や5つのシンクロモードにより
多彩なスピードライト撮影が行えます。

スピードライトのTTLモードで可能な撮影

■スピードライト（別売り）をカメラに装着し、スピードライトをTTLモードにセットすると次のような撮影が行えます。

マルチBL調光撮影・3D-マルチBL調光撮影（総称してマルチエリアBL調光撮影）

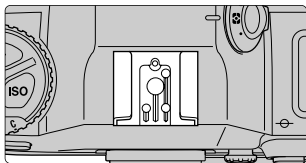
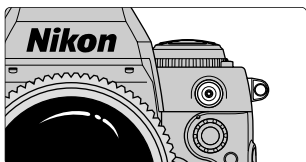
CPU内蔵ニッコールレンズを装着した時に可能です。マルチパターンによる測光情報をもとに主要被写体と背景光のバランスを考慮したBL（バランス）調光を行います。特にモニター発光を行うスピードライト（SB-800・80DX・50DX・28/28DX・27・26・25）使用時は、シャッターボタンを押すとスピードライトが本発光直前にモニター発光を行い、画面内の各部から戻ってくる反射光をカメラ内のTTL自動調光用5分割センサーが瞬時にモニターして、主要被写体と背景光のバランスを考慮した最適な調光レベルを決定します。さらに、モニター発光が可能なスピードライトとDタイプまたはGタイプAFニッコールレンズを組み合わせると、距離情報も加味され、より精度の高い3D-マルチBL調光になります（スポット測光時は自動的にTTL調光となりますので、カメラの測光モードはスポット測光以外にセットしてください）。また、モニター発光が行われないスピードライトやDタイプまたはGタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズ使用時は、モニター発光による情報や距離情報が省略されたマルチBL調光になります。

簡易TTL-BL調光撮影

CPU内蔵ニッコール以外のレンズを装着した時に行われます。この場合、自動的に中央部重点測光に切り換わりますので、主要被写体と背景光のバランスがややおおまかになります。撮影画面内に極端に反射率の高いものが存在したり、背景が大きく抜けていて反射光が戻らない時などは、適正露出が得られない場合があります。モニター発光が行われるスピードライトとSB-24では、TTL調光に切り換えることができます。スポット測光時は自動的にTTL調光となります。

TTL調光撮影

モニター発光が行われるスピードライトとSB-24では、レンズの種類に関係なく可能です。その他のTTLスピードライトではカメラの露出モードをM（マニュアル）にセットした時に自動的に行われる調光モードです。背景の明るさは考慮されず、主要被写体が適正露出となるように調光されます。主要被写体のみを強調する場合や、スピードライト撮影で露出補正を行う時に適しています。F100のスポット測光では、自動的にこのモードになります。

アクセサリーシュー／シンクロターミナル／レディライト

■アクセサリーシュー

・スピードライトSB-800・80DX・50DX・30・29s/29・28/28DX・27・26・25・24・23・22sなどを使用する場合は、アクセサリーシューに差し込むだけでコードレスで接続できます。このカメラのアクセサリーシューはセーフティロック機構（ロック穴）を備えていますので、セーフティロックピン付きのスピードライト（SB-800・80DX・30・29s/29・28/28DX・27・26・25・22s）を取り付けると、スピードライトが不用意に外れるのを防止できます。

■シンクロターミナル

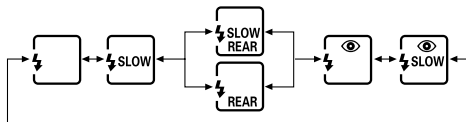
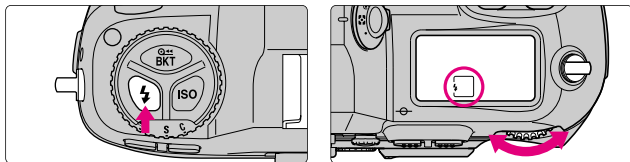
・シンクロコードを必要とするスピードライト撮影時には、シンクロコードをシンクロコードターミナル（JIS-B型外れ防止ネジ付き）に接続してください。ただし、スピードライトSB-800・80DX・50DX・30・29s/29・28/28DX・27・23・22sなどをアクセサリーシューに装着した状態で後幕シンクロを行う場合には、シンクロターミナルに他のスピードライトを接続して増灯撮影などを行なわないでください。

■レディライト

・スピードライトSB-800・80DX・50DX・30・29s/29・28/28DX・27・23・22sなどを使用している場合に、充電が完了して撮影が可能な状態になると、ファインダー内のレディライト⚡が点灯して知らせます。
・スピードライトがTTLや外部自動調光モードにセットされている時、シャッターをきった後レディライト⚡が約3秒間点滅した場合は、スピードライトがフル発光して露出不足の可能性があることを警告しています。撮影距離、絞り、調光範囲などを再度確認して、撮影し直してください。

シンクロモードの種類と特長

■5つのシンクロモードの中から、撮影目的や撮影意図に合わせて希望するシンクロモードが選べます。

シンクロモードボタン を押しながら、メインコマンドダイヤルでシンクロモードをセットします。

・シンクロモードの特長は次のとおりです。

：先幕シンクロモード
通常のスピードライト撮影時にはこのモードにセットします（SB-26・25・24使用時はスピードライト側のシンクロセレクターでセットします）。

SLOW：スローシンクロモード
露出モードをP（プログラムオート）またはA（絞り優先オート）にセットしてスピードライト撮影を行うと、通常はシャッタースピードが1／60～1／250秒に自動的にセットされますが、このモードでは、背景の露出を考慮してシャッタースピードが最長30秒まで自動制御され、背景の夕景や夜景の雰囲気を生かした撮影が行えます。

REAR：後幕シンクロモード

動く被写体をスピードライト撮影する場合に、その被写体の動きを想像させる光の流れなどを被写体の後方に自然な形で表現できます（SB-26・25・24使用時はスピードライト側のシンクロセレクターでセットします）。露出モードをP（プログラムオート）またはA（絞り優先オート）にセットすると、スローシンクロモードも自動的にセットされます。

：赤目軽減モード

スピードライトが発光する前にランププリ照射（SB-800の場合はモニター発光）を行い、暗い所で人物の目が赤く写るのを軽減することができます（SB-800・80DX・28/28DX・27・26使用時のみ）。

SLOW：赤目軽減スローシンクロモード

赤目軽減モードとスローシンクロモードが同時にセットされます。露出モードはP（プログラムオート）またはA（絞り優先オート）にセットしてください（SB-800・80DX・28/28DX・27・26使用時のみ）。

注意　各シンクロモードごとのご注意

- 赤目軽減モードと赤目軽減スローシンクロモード時には、シャッターボタンを押し込んでからランププリ照射（SB-800の場合はモニター発光）を行った後にシャッターがきれてスピードライトが発光しますので、シャッターがきれるまで、カメラや被写体の人物が動かないように注意してください（シャッターチャンスを優先するような撮影にはおすすめできません）。
- 赤目軽減スローシンクロモードとスローシンクロモード時にはシャッタースピードが遅くなるので、手ブレに注意してください（三脚のご使用をおすすめします）。
- スタジオ用大型ストロボでは正しい同調が行えないため、後幕シンクロモードは使用できません。

使用可能なスピードライトについて

■このカメラには、次の別売りスピードライトが使用できます。装着レンズ欄の①はDタイプまたはGタイプニッコール（DXニッコールおよびIXニッコールを除く）、②はDタイプおよびGタイプ以外のAFニッコールレンズ（F3AF用を除く）、Ai-Pニッコール、③はCPU内蔵以外のニッコールを示します。

スピードライト	装着レンズ	TTL				A	M			REAR	
		3D-マルチBL調光	マルチBL調光	簡易TTL-BL調光	TTL調光※1	外部自動調光	マニュアル	FP発光	マルチフラッシュ	後幕シンクロ	赤目軽減発光
SB-800	①	○			○	○	○		○	○	○
	②		○		○	○	○		○	○	○
	③			○	○	○	○		○	○	○
SB-80DX SB-28/28DX	①	○			○	○	○	○	○	○	○
	②		○		○	○	○	○	○	○	○
	③			○	○	○	○	○	○	○	○
SB-50DX	①	○			○		○			○	
	②		○		○		○			○	
	③			○	○		○			○	
SB-27	①	○			○	○	○			○	○
	②		○		○	○	○			○	○
	③			○	○	○	○			○	○
SB-26 ※2	①	○			○	○	○	○	○	○	○
	②		○		○	○	○	○	○	○	○
	③			○	○	○	○	○	○	○	○
SB-25	①	○			○	○	○	○	○	○	
	②		○		○	○	○	○	○	○	
	③			○	○	○	○	○	○	○	
SB-24	① ②		○		○	○	○		○	○	
	③			○	○	○	○		○	○	
SB-29s/29 ※3 SB-23 SB-21B ※3	① ②		○		○		○			○	
	③			○	○		○			○	
SB-30、SB-22s SB-22、SB-20 SB-16B、SB-15	① ②		○		○	○	○			○	
	③			○	○	○	○			○	
SB-11 ※4 SB-14 ※4 SB-140 ※4、※5	① ②		○		○	○	○			○	
	③			○	○	○	○			○	

※1：スポット測光ではTTL調光となります。また、SB-800・80DX・50DX・28/28DX・27・26・25・24以外のTTL調光が可能なスピードライトで露出モードをM（マニュアル）にセットすると、TTL調光となります。

※2：ワイヤレススレーブセレクターをDにした場合、カメラのシャッタースピードは自動的に1/200秒より低速側に切り換わります。

※3：SB-29s/29・SB-21B使用時のオートフォーカス撮影は、AFマイクロ（60mm・105mm・200mm・70～180mm）レンズ装着時のみ可能です。

※4：SB-11・14・140を使用して、TTLモードを使用する場合は、接続にTTL調光コードSC-23が必要です。Aモード、またはMモードを使用する場合は、SB-11・14にはSC-13にSU-2を併用し、SB-140にはSC-13にSU-3を併用して、それぞれ接続します。SB-11・14・140とも、SC-11かSC-15を使用して接続することもできますが、この場合はカメラのファインダー内のレディライトは使用できません。また、シャッタースピードの自動切り換えも行われません。

※5：SB-140使用時の紫外線および赤外線撮影は、SB-140がMモード時のみ可能です。

■別売りスピードライト使用時の注意

・詳細はご使用になる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。
TTLモードが可能な別売りスピードライトの使用説明書にカメラ分類表が記載されている場合は、Aグループカメラに該当する箇所をお読みください。

・SB-26・25・24使用時はスピードライト側のシンクロセレクターのセットが優先され、カメラ側のシンクロモードのセットは無効になります。

・スピードライト使用時の同調シャッタースピードは、1/250秒以下の低速シャッタースピードです（メディカルニッコール120mm f/4をご使用の場合は、1/125秒以下に設定してください)。

・TTLモード時のフィルム感度連動範囲はISO25～1000です。

・フォーカスエリアが中央にない場合は、アクティブ補助光を備えたスピードライトを使用した場合でもアクティブ補助光は点灯しません。

・露出モードがP（プログラムオート）の時、カメラが自動設定する開放側の限界絞りは、使用するフィルム感度によって下表のように制御されます。

フィルム感度（ISO）	25	50	100	200	400	800	1000
開放側の限界絞り（F）	2.8	3.3	4	4.8	5.6	6.7	7.1

※ フィルム感度1段に対し、絞りは1/2段変化します。
また、フィルム感度が表の中間値の場合も、上下のフィルム感度から比例的に変化します。
なお、制御される絞りよりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます。

・スピードライトの調光補正時はファインダー内に露出補正マーク±が点灯しますが、補正値は表示されません。
・SB-28DXは、SB-28にニコンデジタル一眼レフカメラ専用のTTL自動調光機能を付加したものです。F100に装着時の機能は、SB-28と同様です。

☞ 注意　他社製のスピードライトについて

他社製のスピードライト（カメラのX接点に250V以上の電圧がかかるものや、アクセサリーシュー部の接点をショートさせてしまうもの）を使用しないでください。カメラの正常な機能が発揮できないだけでなく、カメラおよびスピードライトのシンクロ回路を破損することがあります。

スピードライトを使用した撮影方法

■ここではカメラにSB-800・80DX・50DX・28/28DX・27・26・25とDタイプまたはGタイプニッコールを装着して行う、マルチエリアBL調光による撮影の方法をご説明します。

1 スピードライトを装着し、測光モードをセットします。

・スポット測光以外にセットしてください。

2 露出モードをセットし、シャッタースピードと絞りを確認します。

・赤目軽減スローシンクロ撮影とスローシンクロモード撮影を行う場合、露出モードはP（プログラムオート）またはA（絞り優先オート）にセットしてください。
・露出モードごとの、セット可能なシャッタースピードと絞りは下表のとおりです。

露出モード	セット可能なシャッタースピード	セット可能な絞り	参照ページ
プログラムオート	カメラが自動的に1/250～1/60秒にセット	カメラが自動的にセット	☞ P.48
シャッター優先オート	1/250秒～30秒※		☞ P.50
絞り優先オート	カメラが自動的に1/250～1/60秒にセット	任意の絞り	☞ P.52
マニュアル	1/250秒～30秒※、バルブ		☞ P.54

※1/250秒より高速のシャッタースピードにセットしてある場合は、スピードライトの電源をONにすると自動的に同調シャッタースピードの1/250秒にセットされます。

・カメラはセットされたシャッタースピードを基準に背景光を測光しますので、露出モードがS（シャッター優先オート）、A（絞り優先オート）の時は、適正露出範囲外を示す露出インジケーターの表示頻度が高くなります。背景光を生かしたスピードライト撮影を行うには、S（シャッター優先オート）、M（マニュアル）の場合、この表示が適正露出となるようにシャッタースピードをセットします。また、P（プログラムオート）、A（絞り優先オート）の場合、シンクロモードをスローシンクロにセットしてください。

3 シンクロモードをセットします。

・赤目軽減モードと赤目軽減スローシンクロモードはSB-800・80DX・28/28DX・27・26使用時のみセットできます。

・SB-26・25使用時、先幕シンクロと後幕シンクロのセットはスピードライト側のシンクロセレクターが優先します。

4 スピードライトの電源スイッチをONまたはSTBYにセットし、発光モードをセットします。

・SB-800・80DX・50DX・28/28DX・26・25はTTLに、SB-27はAUTOにセットします。

5 シンクロセレクターをセットし、表示パネルを確認します。

・SB-26・25使用時はスピードライト側のシンクロセレクターのセットが優先され、カメラ側のシンクロモードのセットは無効になります。
・SB-800・80DX・50DX・28/28DX・27使用時はシンクロセレクターがありませんので、カメラ側でシンクロモードをセットします。
・表示パネルにマルチエリアBL調光時の表示「TTL BL（SB-800の場合）」または「TTL ◎（SB-800以外の場合）」が点灯していること確認します。表示が異なる場合はMODEボタン（SB-27・26・25はMボタン）を押して点灯させてください。

6 構図を決め、ピントを合わせてファインダー内表示を確認します。

・シャッターボタンを半押しして、レディライト⚡の点灯を確認します。

7 調光範囲（光の届く範囲）を確認して、撮影します。

・シャッターをきった後レディライト⚡が約3秒間点滅した場合は、スピードライトがフル発光して露出不足の可能性があることを警告しています。撮影距離、絞り、調光範囲などを再度確認して、撮影し直してください。
・スピードライト撮影を行う際は、ご使用になるスピードライトの使用説明書も併せてお読みください。

コラム：AF機能の組み合わせと特長

フォーカスモードとAFエリアモードとの組み合わせにより、次のようなピント合わせが行われます。P.41のオートフォーカス機能の一覧表と併せてご覧ください。

	フォーカスモード	AFエリアモード	ピント合わせの動作	次のような被写体に便利です。
I	AF-S	シングルエリアAF	選択したフォーカスエリアだけを使用して被写体にピントを合わせ、ピントが合うとフォーカスロックされます。	静止被写体を撮影する場合など、一般的な撮影に便利です。
II	AF-S	至近優先ダイナミックAF	AF-Sの至近優先ダイナミックAFモードでは、5つのフォーカスフレームのうち、自動的にいちばん手前にある被写体に重なっているフォーカスフレームを使用してピントを合わせ、ピントが合うとフォーカスロックされます。ただし、ピントが合う前に使用されたフォーカスフレームから一時的に被写体が外れた場合、他のフォーカスフレームからのピント情報を利用してピントを合わせます。	スナップ写真などピント合わせはカメラまかせにして気軽に撮影する場合に便利です。
III	AF-S	ダイナミックAF	選択したフォーカスエリアだけを使用して被写体にピントを合わせ、ピントが合うとフォーカスロックされます（CS 9）。ただし、ピントが合う前に選択されたフォーカスエリアから一時的に被写体が外れた場合、他のフォーカスフレームからのピント情報を利用してピントを合わせます。	動きのある被写体にも対応するなどスナップ写真で汎用的に撮影する場合に便利です。
IV	AF-C	シングルエリアAF	選択したフォーカスエリアだけを使用して被写体にピントを合わせ、ピントが合ってもフォーカスロックされません。	前後方向に直線的に動く被写体（モータースポーツや陸上競技）など、1つのフォーカスエリアで被写体を捕らえ続ける場合に便利です。
V	AF-C	ダイナミックAF	選択されたフォーカスエリアから一時的に被写体が外れた場合、予測駆動フォーカスと併せて、他のフォーカスフレームからのピント情報を利用してピントを合わせます。	複雑に動く被写体（サッカー競技）など、正確に1つのフォーカスエリアに被写体を捕らえ続けられない場合に便利です。
VI	AF-C	至近優先ダイナミックAF	AF-Cの至近優先ダイナミックAFモードでは、5つのフォーカスフレームのうち、自動的にいちばん手前にある被写体に重なっているフォーカスフレームを使用してピントを合わせます。ただし、ピントが合う前に使用されたフォーカスフレームから一時的に被写体が外れた場合、予測駆動フォーカスと併せて、他のフォーカスフレームからのピント情報を利用してピントを合わせます（CS 10）。	動きのある被写体を、ピント合わせはカメラまかせにして気軽に撮影する場合に便利です。

資料編

別売りアクセサリー、
カメラと電池の取り扱いについて、
仕様、索引などが書かれています。

別売りアクセサリーについて

■F100には各種電源、データバック、スピードライト、パソコンソフトなど、撮影領域を拡げる様々なアクセサリーが用意されています。

●3Vリチウム電池ホルダーMS-13

・F100に標準装備の単3ホルダーに代えて装着すると、リチウム電池（CR123AまたはDL123A）2本が使用できます。

●マルチパワーバッテリーパックMB-15

・F100にマルチパワーバッテリーパックMB-15を装着すると、縦位置でのホールディング性とともに縦位置シャッターボタン、縦位置コマンドダイヤルなどによって操作性も向上します。また、マルチパワーバッテリーパックMB-15本体には単3ホルダーが付属されており、電源には1.5V単3形のアルカリ電池、またはリチウム電池6本が使用可能です（撮影可能本数は条件により異なります☞ P.106）。

●ニッケル水素電池MN-15

・マルチパワーバッテリーパックMB-15専用アクセサリーとして、ニッケル水素電池MN-15が用意されています。ニッケル水素電池MN-15は充電電池パックで約500回（クイックチャージャーMH-15使用時）の充放電が行えます（撮影可能本数は条件により異なります☞ P.106）。

●クイックチャージャーMH-15

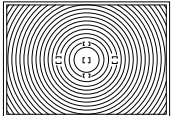
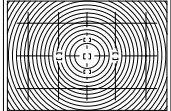
・ニッケル水素電池MN-15専用の充放電器で放電したニッケル水素電池MN-15を約70分でフル充電できます。この製品はニコンデジタルカメラE3／E3S用のニッケル水素電池EN3用のクイックチャージャーEH-3や、D1用のリチャージャブルバッテリーEN4用のクイックチャージャーMH-16と同等の機能があります。

●アンティフォグ　ファインダーアイピースDK-15

・寒い時や湿度が高い時など、ファインダーにくもりが生じやすい状況でもくもりの発生を防止し、クリアなファインダー像を提供します。

●接眼補助レンズ

・遠視、近視の方のための補助レンズで、接眼部にねじ込むだけで簡単に取り換えができます。-5、-4、-3、-2、0、+0.5、+1、+2、+3m^{-1}の9種類が用意されていますが、いずれもボディとの合成視度で補助レンズ単体の視度ではありません。視度補正は個人差が大きいので店頭で実際に付けてお選びください。F100では、視度調節機能が内蔵されております（$-3\sim+1m^{-1}$）ので、この範囲外の視度補正が必要な時にご使用ください。なお、別売りの接眼補助レンズをご購入の際は、カメラの視度調節機能を0近辺にセットしてお選びください。

●接眼目当てDK-6

・接眼窓に取り付けて使用するゴム製の目当てで、撮影にあたってファインダー視野がよりはっきり確認でき、目の疲れをおさえます。

●アングルファインダーDR-4／アイピースアダプターDK-7

・アングルファインダーDR-4はF100の接眼部に取り付けて、撮影レンズの光軸と直角の方向からファインダー像を確認できます。
・アイピースアダプターDK-7はF100にアングルファインダーDR-3やマグニファイヤーDG-2を取りつけて使用する際のアダプターです。

●ファインダースクリーン

・F100専用ファインダースクリーンとして2種類が用意されています。交換方法はP.67をご覧ください（フォーカスフレームはファインダースクリーン上には刻印されていません）。

種類		説明
B マット式		F100に標準装備されているスクリーンです。
E 方眼マット式		B型マット式に方眼を入れたもので、撮影の際の構図決定に役立ちます。特にPCニッコールを使用する時、このスクリーンを用いると便利です。

別売りアクセサリーについて—つづき—

●フィルター

- ニコンフィルターは、ねじ込み式、後部交換式、および組み込み式の3つの形式に大別できます。F100の場合は、R60を除いて実用上露出倍数を考慮する必要はありません 。R60を使用する場合は+1段の露出補正をしてください。また、市販の特殊フィルター等をご使用の場合、オートフォーカスやフォーカスエイド撮影が行えないことがありますのでご注意ください。
- F100の測光系の特性上、従来の偏光フィルター（Polar）は使用できませんので円偏光フィルター（C-PLまたはC-PLⅡ）をご使用ください。
- フィルターをレンズ保護のために常用する場合は、L37C、またはNCフィルターの使用をおすすめします。
- 逆光撮影の際や輝度の高い光源が画面に入ったりする時は場合によりフィルターによってゴーストが発生するおそれがありますので、フィルターをはずして撮影することをおすすめします。

種類		記号	露出倍数		ねじ込みサイズ（mm）											後部交換式	組み込み式	
			昼光	タングステン光	39	46	52	58	62	67	72	77	82	95	122	バヨネット	39 mm	52 mm
白黒カラー用	ニュートラルカラー	NC	1			○		○		○								
	スカイライト	L1BC			○		○		○		○					○		
	紫外線	L37C			○		○		○		○	○	○	○	○	○		
		L39					○											
白黒用	黄	Y48	1.7（2/3）	1.2（1/3）	○				○		○	○				○		
		Y52	2（1）	1.4（1/2）	○													
	橙	O56	3.5（1 5/6）	2（1）	○		○		○		○	○				○		
	赤	R60	8（3）	5（2 1/3）	○		○		○		○	○		○		○		
	黄緑	X0	2（1）	1.7（2/3）			○											
	緑	X1	5（2 1/3）	3.5（1 5/6）			○											
特殊撮影用（白黒・カラー用）	ソフト	No.1	1				○		○		○	○						
		No.2					○		○		○							
	円偏光	C-PL	2～4（1～2）			○											○	○
	円偏光Ⅱ	C-PLⅡ					○	○	○	○	○	○						
	ニュートラルデンシティ	ND2S	2（1）		○													
		ND4S	4（2）		○		○											
		ND8S	8（3）		○													
		ND400	400（8.6）				○											
カラー用	アンバー	A2	1.2（1/3）		○		○		○		○	○				○		
		A12	2（1）		○				○									
	ブルー	B2	1.2（1/3）		○		○		○		○	○				○		
		B8	1.6（2/3）		○		○											
		B12	2.2（1 1/6）		○				○									

※（　）内は絞りの段数を示します。

●交換レンズ

・F100には交換レンズとして標準、広角、望遠、ズーム、マイクロ、DC（デフォーカスイメージコントロール）レンズなど様々なAFニッコールレンズが用意されています。

●データバックMF-29

・データバックMF-29は、F100に装着することによって、「年月日」「月日年」「日月年」「日時分」のいずれかの写し込みが可能なデータバックです。裏ぶたとの交換方法はP.68をご覧ください。

●ニコンスピードライトSB-27・SB-800

SB-27

SB-800

・ニコンスピードライトSB-27はガイドナンバー30、SB-800はガイドナンバー38（いずれもマニュアル時、ズームヘッド35mm、ISO100・m表示、20℃）で通常は単3アルカリ乾電池を4本（SB-800の場合、付属の増設電池パックSD-800装着時は5本）使用しますが、外部電源（別売り）としてSD-6、7、8A、SB-800ではさらにパワーブラケットSK-6もご使用になれます。
・画面内に極端に反射率の高いものがある時や背景が大きく抜けている場合でも、背景と主要被写体の明るさのバランスを考慮してより自然に表現する3D-マルチBL調光が可能です。また、暗いところでもカメラのオートフォーカスによるピント合わせを可能にするアクティブ補助光を内蔵しています。
・レンズの焦点距離に応じて照射角を変化させるオートパワーズーム機能を備えています。その他、スローシンクロ、後幕シンクロ、外部自動調光、マニュアル発光、SB-800ではさらにマルチフラッシュ発光、ワイヤレス増灯撮影等、多彩なスピードライト撮影が簡単に行えます。

●スレーブフラッシュコントローラーSU-4

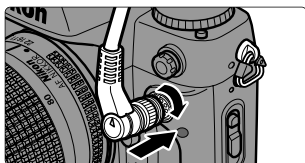
・F100にスピードライトを装着し、さらに別のスピードライトにスレーブフラッシュコントローラーSU-4を装着すれば、ワイヤレスでカメラのスピードライトの発光と同時にSU-4付きスピードライトも発光させることができ、ワイヤレスでTTL調光による増灯撮影が行えます。

●専用セミソフトケース（CF-57／CF-58）

・F100には専用ケースとして、CF-57（標準用）と、CF-58（望遠用）が用意されています。CF-57はAFニッコール28～105mm f/3.5～4.5D IF、CF-58はAFニッコールED70～300mm f/4～5.6Dよりそれぞれ小さいレンズを取り付けた状態で収納できます。

●ネックストラップ／ハンドストラップAH-4

・ネックストラップは革製のAN-1とあみひも製のAN-4Y、AN-4B、および幅の広いAN-6Y、AN-6Wがあります。色はAN-1とAN-4Bが黒、AN-4Y、AN-6Yが黄色、AN-6Wがワインカラーです。
・ハンドストラップはカメラのホールディングを確実、容易にし速写性を向上させます。

●10ピンターミナルに接続するアクセサリー

・10ピンターミナルに下記のアクセサリーを接続することにより、遠隔撮影、無人撮影、パソコンとの接続などが行えます。
・使用しない時は、必ず10ピンターミナルにキャップをしてください。ゴミ等が入ると、誤作動の原因となることがあります。
・10ピンターミナルへの接続は図のようにペンタプリズム側に傾け指標に合わせて接続します。

名　称	用　途	長さ
リモートコード MC-20	離れた位置からカメラのレリーズ操作ができるので、カメラブレを防ぎたい撮影などに便利です。 また、「LONG EXP」や「TIME」モードを備えており、レリーズ中は1秒ごとに電子音で知らせます。	約80cm
延長コード MC-21	MC-20、22、23、25、30に併用可能な延長コードです。	約3m
リモートコード MC-22	コード先端にある端子（青、黄、黒）に特殊装置を接続すると、音や信号による遠隔撮影が可能となります。	約1m
接続コード MC-23	F100カメラ2台を同時に作動させるための接続コードです。	約40cm
変換コード MC-25	F100に従来製品のラジオコントロールセットMW-2や、インターバロメーターMT-2、ルミコントロールセットML-2等を接続する際に、10ピンターミナル用に変換するコードです。	約20cm
リモートコード MC-30	カメラブレを避けたい時や、カメラから離れてシャッターをきりたい時などに便利です。また、長時間露出（バルブ）撮影時に、シャッターボタンをロックする機能も備えています。	約80cm
接続コード MC-31/MC-33	F100とパソコンを接続するコードです（MC-31はシリアルポート25ピン［Dsub-25］用、MC-33はシリアルポート9ピン［Dsub-9］用）。フォトセクレタリーには付属しません。	約1.7m
ルミコントロールセット ML-2	最大で約100m離れたところから、信号による遠隔操作が行えます。複数のML-2を組み合わせると、さらに離れた距離からの遠隔操作が可能です（変換コードMC-25が必要です）。	――
ルミコントロールセット ML-3	最大で約8m離れたところから、信号による遠隔操作が行えます。	――

カメラと電池の取り扱いについて

■カメラの取り扱い

使用禁止

シンナーやベンジンなどの有機溶剤をカメラの清浄に使用しないこと

火災や健康障害の原因となります。
製品を破損します。

●カメラ本体をお手入れする際の注意

カメラ本体のお手入れは、ブロアーでゴミやホコリを軽く吹き払った後、柔らかい清潔な布で軽く拭いてください。特に、海辺で使った後は、真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた布で軽く拭いて乾かしてください。
まれに、ブラシなどで表示パネルを拭いた場合に、静電気で表示パネルか点灯したり、黒く変色したりしますが、故障ではありません。しばらくすると元に戻ります。

●ミラーやレンズを手入れする際の注意

ミラーやレンズにゴミやホコリが付いているときは、キズが付きやすいので、ブロアーでゴミやホコリを軽く吹き払う程度にしてください。
レンズに万一指紋などが付いてしまった場合は、柔らかい清潔な布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせ、軽く拭き取ってください。

●強いショックを与えないでください。

カメラおよびレンズを落としたり、ぶつけたりしないように注意してください。
強い衝撃や振動を加えますと、破損したり精密に調整された部分に悪影響を及ぼします。

●シャッター幕に触れないでください。

シャッター幕は非常に薄い幕でできていますので、押さえたり、突いたり、ブロアーなどで強く吹くなどは、絶対にしないでください。キズ、変形、破損などの原因となります。

●強い電波や磁気を発生する場所は避けてください。

テレビ塔のような強い電波や磁気の発生する場所では、カメラが正常に作動しなくなることがありますので注意してください。

●風通しの良い場所に保管してください。

カビや故障などを防止するために、風通しのよい乾燥した場所を選んでカメラを保管してください。

・ナフタリンや樟脳の入ったタンスの中、磁気を発生する器具のそば、極度に高温となる夏期の車内、使用しているストーブの前などにカメラを置かないでください。故障の原因になります。

●極端な温度変化は避けてください。

温度差が極端となる所（寒い所から急に暖かい所や、その逆となる所）にカメラを持ち込むと、カメラの内外に水滴を生じます。カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてからご使用ください。

●保管する際は電池を取り出し、乾燥剤といっしょにしてください。

長期間カメラを使用しないときは、電池の液漏れなどからカメラを保護するために、カメラから電池を取り出して保管してください。

・保管する際は、カメラをポリエチレン袋などに乾燥剤といっしょに入れておくとより安全です。ただし、皮ケースをビニール袋に入れておくと、変質することがありますので避けてください。電池は高温、多湿となる場所を避けて保管してください。
・乾燥剤（シリカゲル）は湿気を吸って効力がなくなりますので、ときどき交換してください。
・カメラを長期間使用しないまま放置しておくと、カビや故障の原因となることがありますので、1ヵ月に1度を目安に電源を入れて数回シャッターをきってください。

■電池の取り扱い

放置禁止

電池は幼児の手の届かないところにおくこと

万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

●単3形アルカリ乾電池または単3形リチウム電池4本を使用してください。

別売りアクセサリーの3Vリチウム電池ホルダーを使用すると3Vリチウム電池（CR123AまたはDL123A）2本が使用できます。また、マルチパワーバッテリーパックMB-15を使用すると1.5V単3形アルカリ乾電池または単3形リチウム電池6本か、ニッケル水素電池MN-15が使用できます。

・大切な撮影に際しては、早めに電池を交換するか、予備の電池を携行してください。

●電池を入れるときは、カメラの電源をOFFにしてください。

電池を入れるときは、カメラの電源スイッチをOFFにしてから、⊕⊖を間違いのないよう正しく入れてください。

・付属の電池は購入時の作動テスト用ですので、寿命が短い場合があります。
・電池の両極が汗や油などで汚れていると、接触不良の原因となります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。

●低温時には新しい電池を使用してください。

低温時に消耗した電池を使いますと、カメラが作動しなくなることがあります。
低温時に撮影する場合は、新しい電池を使用し、保温した予備の電池を用意して暖めながら交互に使用してください。

・低温時は、常温時より巻き上げ速度や撮影可能本数も低下します。低温のために、一時的に性能が低下して使えなかった電池でも、常温に戻ると使える場合があります。

●電池を火の中に投入したり、ショートさせないでください。

電池を火の中に投入したり、ショートさせたり、分解、加熱、充電したりしないでください。

故障かな？と思ったら（修理を依頼される前に）

■表示パネル、ファインダー内表示に警告表示が点灯または点滅した場合は、修理を依頼される前に、次のことをご確認ください。

こんなとき		原　因	対処方法	参照ページ
表示パネル	ファインダー内			
FEE（点滅）	FEE（点滅）	●レンズの絞りリングが最小絞りになっていません。	●レンズの絞りリングを最小絞りにしてください。	P.21
電池マーク（点灯）		●電池容量がわずかです。	●予備の電池を用意してください。	P.19
電池マーク（点滅）		●電池が消耗しています。	●電池を交換してください。	P.19
電池マーク（点滅） Err（点滅）	Err（点滅）	●フィルム巻き上げ途中で電池消耗によりモーターが停止しています。	●新品電池に交換または充電池の場合は再充電し、電源を再度ONにしてください。頻繁に警告が表示される場合は、当社サービス機関にお問い合わせください。	P.19
F--（点灯）	F--（点灯）	●CPU内蔵ニッコール以外のレンズが装着されているか、またはレンズが装着されていません。	●CPU内蔵ニッコール（IXニッコールを除く）を使用してください。ただし、A、Mモードにセットして、レンズの絞りリングで絞りをセットすれば撮影できます）。	P.20 P.34
Err（点滅） E（点滅）	Err（点滅） E（点滅）	●フィルムが正しく送られていません。	●フィルムを取り出して入れ直してください。	P.23
ISO DX（点滅） Err（点滅）	Err（点滅）	●フィルム感度をDXにセットした状態でDXマークがないフィルムが入っています。	●DXマーク付フィルムに入れ換えるか、フィルム感度を手動でセットしてください。	P.23 P.36
E（点滅）	E（点滅）	●フィルム巻き戻し完了後、フィルムを取り出さずにおくと、半押しタイマーがONの間は点滅します（いったんOFFになると点灯に変わります）。	●フィルムを取り出してください。	P.31

こんなとき		原　因	対処方法	参照ページ
表示パネル	ファインダー内			
End（点滅）	End（点滅）	●撮影フィルムが終了しています。	●2つのフィルム巻き戻しボタンを同時に押してフィルムを巻き戻してください。	P.31
	▶ ◀（点滅）	●オートフォーカスでピント合わせができません。	●マニュアル（手動）でピント合わせを行ってください。	P.29
H I（点灯）	H I（点灯）	●被写体が明るすぎてカメラの制御範囲を超えています。	●Pモード時はND（光量調節用）フィルターを使用してください（S、Aモード時に下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 ●Sモード時はシャッタースピードをより高速側にセットしてください。 ●Aモード時はより大きい数値の絞りにしてください。	P.48〜53 P.50 P.52
Lo（点灯）	Lo（点灯）	●被写体が暗すぎて、カメラの制御範囲を超えています。	●Pモード時はスピードライトを使用してください（S、Aモード時に下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 ●Sモード時はシャッタースピードをより低速側にセットしてください。 ●Aモード時はより小さい数値の絞りにしてください。	P.48〜53 P.50 P.52
露出インジケーター（点滅）	露出インジケーター（点滅）	●十側の場合は被写体が明るすぎて、一側の場合は被写体が暗すぎて、カメラの制御範囲を超えています。	●十側の場合はND（光量調節用）フィルターを使用してください。一側の場合はスピードライトを使用してください。	P.55
buLb（点滅）	buLb（点滅）	●Sモード時にシャッタースピードがbuLbにセットされています。	●シャッタースピードをbuLb以外にセットするか、Mモードにセットしてください。	P.50 P.64
PまたはS（点滅）	A（点灯）	●CPU内蔵ニッコール以外のレンズが装着されているか、またはレンズが装着されていない状態でP、Sモードにセットされています。	●CPU内蔵ニッコールレンズ以外のレンズが装着されている場合は、AまたはMモードにセットしてください。	P.34 P.48〜55

資料

こんなとき		原　因	対処方法	参照ページ
表示パネル	ファインダー内			
セットしたシャッタースピード（点滅）	25o（点灯）	●S、Mモード時にシャッタースピードが同調スピードより高速にセットされています。	●シャッタースピードは自動的に1/250秒に切り換わります。	P.86
	⚡（点滅）	●発光直後の約3秒間の点滅は、フル発光して露出不足の恐れがあります。	●撮影距離、絞り、調光範囲などを再度確認して、撮影し直してください。	P.81 P.87
Err（点滅）	Err（点滅）	●撮影中に何らかの異常を検出しました。	●再度シャッターボタンを押してください。この操作で警告表示が解除されなかったり、頻繁に警告が表示される場合は、当社サービス機関にご相談ください。	
FuL（点滅）	FuL（点滅）	●撮影データの記憶容量がいっぱいになっています。	●いったん電源スイッチをOFFにし、再度電源スイッチをONにしてください。警告は解除され、記憶されている撮影データを削除するまで、次のデータは記憶されません。	
👁（点滅）		●赤目軽減モードまたは赤目軽減スローシンクロモードがセットされ、赤目軽減発光が不可能なスピードライトが装着されています。	●赤目軽減発光が可能な専用スピードライトをご使用ください。	P.83
0--と（点滅）フィルムカウンター（点滅）	0--と（点滅）フィルムカウンター（点滅）	●電池容量の低下などで巻き戻し途中で停止しています。	●いったん電源スイッチをOFFにして電池を交換した後、電源スイッチをONにして再度巻き戻し操作を行ってください。	P.37

電子制御カメラの特性について

きわめて稀なケースとして、表示パネルに異常な表示が点灯したままカメラが作動しなくなることがあります。原因として、外部から強力な静電気が電子回路内部に侵入したことが考えられます。万一このような状態になったときは、電源スイッチをOFFにして電池を入れ直し、電源スイッチをONにしてカメラを作動させてみてください。

アフターサービスと保証について

■この製品についてのお問い合わせは

ご意見、ご質問はニコンカスタマーサポートセンターでお受けしています。

・ニコンカスタマーサポートセンターにつきましては、使用説明書裏面をご参照ください。

■修理を依頼される場合は

ご購入店、または当社サービス機関にご依頼ください。

・ご転居、ご贈答品などでご購入店に修理を依頼することができない場合は、最寄りの販売店、または当社サービス機関にご相談ください。
・当社サービス機関につきましては、使用説明書裏面をご参照ください。

■補修用性能部品について

このカメラの補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後10年間を目安としています。

・補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
・修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後におきましても、修理可能な場合もありますので、ご購入店、または当社サービス機関へお問い合わせください。
・水没、火災、落下等による故障、または破損で全損と認められる場合は、修理が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、当社サービス機関にお任せください。

資料

製品の保証について

① この製品には「保証書」がついていますのでご確認ください。

② 保証書はお買い上げの際、ご購入店からお客様に直接お渡しすることになっています。
「ご購入者氏名」および「ご住所」「購入年月日」「購入店名」がすべて記載された保証書をお受け取りになり、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

③ 保証規定による保証修理は、ご購入日から1年間となっております。
「保証書」をお受け取りになりませんと、上述の保証修理がお受けになれないことになりますので、もしお受け取りにならなかった場合は、ただちにご購入店にご請求ください。

④ 海外での保証内修理は領収書の提示を求められることがありますので、保証書とともに領収書の携行をお願い致します（領収書のない場合は有料となる場合があります）。

⑤ 保証期間経過後の修理は、原則として有料となります。また、運賃諸掛かりはお客様にご負担願います。

⑥ 保証期間中や保証期間経過後の修理、故障など、アフターサービスについてご不明なことがございましたら、ご購入店、または当社サービス機関へお問い合わせください。

仕様

型式	モーター内蔵35mm一眼レフレックス電子制御式フォーカルプレーンシャッターオートフォーカスカメラ
露出制御	P ：プログラムオート（プログラムシフト可能） S ：シャッター優先オート A ：絞り優先オート M ：マニュアル
画面サイズ	24 X 36mm
レンズマウント	ニコンFマウント（AFカップリング、AF接点付）
交換レンズ	・DタイプまたはGタイプAFニッコール：AFなどフル機能使用可 ・PCマイクロニッコール85mmF2.8D：オートフォーカスおよびM以外の露出モードを除く機能使用可（あおり操作時を除く） ・DタイプおよびGタイプ以外のAFニッコール（F3AF用を除く）：3D-10分割マルチパターン測光を除く機能使用可 ・Ai-Pニッコール：3D-10分割マルチパターン測光およびオートフォーカスを除く機能使用可 ・DXニッコールおよびIXニッコール：使用不可 ・CPU内蔵ニッコール以外：露出モードはA、Mモードで可、測光モードは中央部重点測光およびスポット測光モードで可 開放F値が f/5.6より明るい場合フォーカスエイド可
ファインダー	・アイレベル式ペンタプリズム使用、視度調節機構内蔵（-3～+1m-1）
アイポイント	21mm（-1.0m-1のとき）
ファインダースクリーン	専用B型クリアマットスクリーン Ⅲ、他に別売りの専用E型（方眼マット式）と交換可能
ファインダー視野率	約96％（対実画面）
ファインダー倍率	約0.70倍（50mmレンズ・∞・-1.0m-1の時）
ファインダー内表示（イルミネーター付）	・ピント表示、測光モード表示、シャッタースピードロックマーク、AEロック表示、シャッタースピード表示、絞りロックマーク、絞り表示、露出モード表示、露出インジケーター、露出補正マーク、フィルムカウンター／露出補正値表示、レディライト、フォーカスフレーム（エリア）5点
ミラー	クイックリターン式

レンズ絞り	瞬間復元式、プレビューボタン付
オートフォーカス	TTL位相差検出方式、マルチCAM1300オートフォーカスモジュールにより検出 ・検出範囲：EV -1～+19（ISO100・常温）
レンズサーボ	・S（シングルAFサーボ）、C（コンティニュアスAFサーボ）、M（マニュアルフォーカス） ・S（シングルAFサーボ）、C（コンティニュアスAFサーボ）では、被写体条件により自動的に予測駆動フォーカスに移行
フォーカスエリア	5箇所のフォーカスエリアの中から1箇所を選択可能
AFエリアモード	・シングルエリアAFモード ・ダイナミックAFモード（至近優先ダイナミックAF機能付き）
フォーカスロック	AE/AFロックボタン、またはS（シングルAFサーボ）時シャッターボタン半押しにて可能
測光方式	TTL開放測光方式 以下の3測光モードより選択可能（使用するレンズによっては制限あり） ・3D-10分割マルチパターン測光 ・中央部重点測光：φ12mm範囲を測光（中央重点度約75%） ・スポット測光：φ4mm相当を測光（全画面の約1%）
測光範囲	3D-10分割マルチパターン測光　EV0～21 中央部重点測光　EV0～21 スポット測光　EV3～21 （常温、ISO100、f/1.4レンズ使用時）
露出計連動	CPU連動方式、Ai方式併用
露出補正	±5段の範囲で1/3段ステップで補正可能
AEロック	AE/AFロックボタンにより輝度値をロック
オートブラケティング	撮影枚数＝2コマまたは3コマ、補正ステップ＝1/3、1/2、2/3、1段のステップで可能
フィルム感度設定	・DX方式、マニュアルのいずれも可能（マニュアル優先） ・フィルム感度連動範囲：DX時・ISO25～5000、マニュアル時・ISO6～6400、1/3段ごとにセット可能

仕様ーつづきー

シャッター	電子制御上下走行式フォーカルプレーンシャッター
シャッタースピード	・P、Aモード時：30～1/8000秒 ・Sモード時：30～1/8000秒（1/3段ステップ） ・Mモード時：30～1/8000秒（1/3段ステップ）、buLb
シンクロ接点	・X接点のみ、1/250秒以下の低速シャッタースピードでスピードライトに同調
スピードライトの調光方式	TTL自動調光5分割センサー一体型ICによる以下の調光制御 ・マルチエリアBL調光：SB-800・80DX・50DX・28/28DX・27・26・25とDタイプまたはGタイプニッコールの組み合わせにより3D-マルチBL調光可能。DタイプおよびGタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズ、またはモニター発光を行わないスピードライトとの組み合わせ時にはマルチBL調光可能 ・簡易TTL-BL調光：SB-800～20等とCPU内蔵ニッコール以外のレンズとの組み合わせ時は、中央部重点測光による簡易TTL-BL調光可能 ・TTL調光時のフィルム感度連動範囲：ISO25～1000
シンクロモード	先幕シンクロ・赤目軽減・赤目軽減スローシンクロ・スローシンクロ・後幕シンクロ設定可能
レディライト	SB-800・80DX・50DX・30・29s/29・28/28DX・27・26・23等使用時に充電完了で点灯、フル発光による露出警告時は点滅警告
アクセサリーシュー	ホットシュー装備（シンクロ接点、レディ信号接点、TTL調光ストップ信号接点、モニター信号接点、GND付）、セーフティロック機構（ロック穴）付
シンクロターミナル	JIS型シンクロターミナル標準装備、外れ防止ネジ付
セルフタイマー	電子制御式、作動時間10秒
プレビューボタン	プレビューボタンにより絞り込み可能
フィルム装填	順巻式イージーローディング、シャッターボタンの操作によりフィルムカウント1まで自動空送り（シャッター、ミラーは不作動）

フィルム巻き上げ	・内蔵モータによる自動巻き上げ、S、C、Cs切り換え可能 ・巻き上げ速度（フォーカスモードC、露出モードM、1/250秒以上の高速シャッタースピード、36EX平均値） S ：1コマ巻き上げ C ：連続巻き上げ 約4.5コマ/秒 （単3形アルカリ乾電池使用時） 約5コマ/秒 （マルチパワーバッテリーパックMB-15使用時） Cs ：低速連続巻き上げ 約3コマ/秒 （単3形アルカリ乾電池使用時） 約3コマ/秒 （マルチパワーバッテリーパックMB-15使用時）
フィルム巻き戻し	・内蔵モータによる自動巻き戻し（2つの巻き戻しボタン操作による） ・巻き戻し時間（36EX） C ：連続巻き上げ時は約9秒（単3形アルカリ乾電池使用時） Cs ：低速連続巻き上げ時は約19秒（単3形アルカリ乾電池使用時）
多重露出	給送モードセレクトダイヤルの操作で可能
表示パネル情報（イルミネーター付）	・フィルム感度／DXマーク、シャッタースピードロックマーク、シャッタースピード表示、絞りロックマーク、絞り表示、露出補正マーク、オートブラケティングマーク、露出インジケーター、カスタムマーク、露出モード表示、プログラムシフトマーク、シンクロモード表示、AFエリアモード表示、フォーカスエリア表示、バッテリーチェック表示、フィルムカウンター
裏ぶた	蝶番式（取り外し可能）、AFエリアモードセレクトダイヤル、フォーカスエリアセレクター装備、データバックMF-29と交換可能
10ピンターミナル	標準装備
電源	単3ホルダーMS-12（アルカリ乾電池またはリチウム電池4本使用）標準装備、3Vリチウム電池ホルダーMS-13（別売り）により3Vリチウム電池（CR123AまたはDL123A）2本使用可能、マルチパワーバッテリーパックMB-15（別売り）と単3ホルダーMS-15により単3形アルカリ乾電池または単3形リチウム電池6本か、ニッケル水素電池MN-15（別売り）が使用可能
電源スイッチ	電源ON、OFFの2ポジションに加え、表示パネルにイルミネーターを点灯させるポジションを装備
半押しタイマー	電源スイッチON後、無操作状態で6秒後自動OFF 電源ON時はシャッターボタンの半押し及びAF作動ボタン等の操作に連動して半押しタイマーON

仕様ーつづきー

バッテリーチェック

半押しタイマーON状態で、表示パネルにバッテリーチェック表示を以下の3段階で表示

- ：点灯（電池容量充分）
- ：点灯（電池消耗）
- ：点滅　交換表示（表示消灯時も電池交換）

撮影可能フィルム本数

電池 / 温度	単3形アルカリ乾電池	単3形リチウム電池	3Vリチウム電池（MS-13使用）
常温	約60本	約110本	約60本
-10℃	約3本	約60本	約25本

電池 / 温度	単3形アルカリ乾電池（MB-15使用）	単3形リチウム電池（MB-15使用）	ニッケル水素電池（MB-15使用）
常温	約100本	約140本	約70本
-10℃	約6本	約90本	約50本

36枚撮りフィルム、装着レンズAF28-105mm f/3.5-4.5D、フィルム給送モードS、フォーカスモードC、1/250秒以上の高速シャッタースピード、各コマ毎に無限遠から至近間を1往復1回レリーズ後、すぐに同じ動作を繰り返して実施

電池 / 温度	単3形アルカリ乾電池	単3形リチウム電池	3Vリチウム電池（MS-13使用）
常温	約25本	約40本	約20本
-10℃	約1本	約20本	約10本

電池 / 温度	単3形アルカリ乾電池（MB-15使用）	単3形リチウム電池（MB-15使用）	ニッケル水素電池（MB-15使用）
常温	約35本	約60本	約20本
-10℃	約3本	約25本	約15本

36枚撮りフィルム、装着レンズAF ED80-200mm f/2.8D New、フィルム給送モードS、フォーカスモードC、1/250秒以上の高速シャッタースピード、半押しを8秒間持続させた後、無限遠から至近間を1往復し、レリーズ後1秒間の半押しタイマーが切れるまで放置して、同じ動作を繰り返して実施

バルブ撮影時 連続撮影時間

電池 / 温度	単3形アルカリ乾電池	単3形リチウム電池	3Vリチウム電池（MS-13使用）
常温	約4時間	約7時間	約3時間
-10℃	約1.5時間	約5時間	約2.5時間

電池 / 温度	単3形アルカリ乾電池（MB-15使用）	単3形リチウム電池（MB-15使用）	ニッケル水素電池（MB-15使用）
常温	約8時間	約10時間	約4時間
-10℃	約2時間	約6時間	約2.5時間

三脚ネジ穴

1/4（ISO 1222）

カスタム セッティング機能	下記22項目のカスタムセッティングが可能 (1) フィルム終端時の自動巻き戻し (2) 露出値（シャッタースピード・絞り・露出補正値・オートブラケティング補正ステップ）のステップ幅の変更 (3) オートブラケティング撮影時の補正順序の変更 (4) シャッターボタンの半押し操作によるAFレンズ駆動 (5) DXマークがないフィルム装てん時の警告表示 (6) フォーカスエリアの選択を循環方式に変更 (7) シャッターボタンの半押しによるAEロック (8) 裏ぶたを閉じるとフィルムの空送りが開始 (9) S（シングルAFサーボ）での至近優先ダイナミックAF (10) C（コンティニュアスAFサーボ）での至近優先ダイナミックAF (11) AE・SBブラケティングの同時セット、単独セット (12) コマンドダイヤルの変更 (13) 露出補正簡易設定 (14) 多重露出撮影時の撮影方法の変更 (15) 半押しタイマーの作動時間の変更 (16) セルフタイマーの作動時間の変更 (17) 各ボタンの操作によるイルミネーターの点灯 (18) 0コマ目のデータ写し込み (19) 絞りの制御方法 (20) 露光直前のセルフタイマー表示LED点灯 (21) AE/AFロックボタンによる同時ロック、単独ロック、AEロックの維持 (22) レンズの絞りリングによる絞りセット
ツーボタンリセット機能	CSとMODEボタンを同時に約2秒間押す動作により、一部機能を除き、各機能のセット状態を一括して初期状態にリセット可能
大きさ	約155mm（幅）×113mm（高さ）×66mm（奥行）
質量（重さ）	約785g（ボディのみ、電池を除く）
別売り 専用アクセサリー	・データバックMF-29、3Vリチウム電池ホルダーMS-13、マルチパワーバッテリーパックMB-15、ニッケル水素電池MN-15、クイックチャージャーMH-15、ファインダースクリーン1種、セミソフトケースCF-57/58

＊仕様中のデータは特に記載のある場合を除き、すべて常温（20℃）、新品アルカリ電池使用時のものです。

仕様、外観の一部を、改善のため予告なしに変更することがあります。

索引　五十音順［操作ボタン・レバーおよび表示等は、各部の名称（☞ P.2）

英数

あ

か

さ

資料

カスタムセッティング機能一覧

	機能	セット内容
1	**フィルム終端時の自動巻き戻し**	0：しない（初期値） 1：する
2	**露出値（シャッタースピード・絞り・露出補正値・オートブラケティング補正ステップ）のステップ幅の変更**	3：1／3段（初期値） 2：1／2段 1：1段
3	**オートブラケティング撮影時の補正順序の変更**	0：初期設定の順（☞ P.60〜61） 1：マイナス側からプラス側へ
4	**シャッターボタンの半押し操作によるAFレンズ駆動**	0：する（初期値） 1：しない
5	**DXマークがないフィルム装てん時の警告表示**	0：フィルムの空送り後（初期値） 1：電源スイッチがONの時
6	**フォーカスエリアの選択を循環方式に変更**	0：しない（初期値） 1：する
7	**シャッターボタン半押しによるAEロック**	0：しない（初期値） 1：する
8	**裏ぶたを閉じるとフィルムの空送りが開始（電源ON時）**	0：しない（初期値） 1：する
9	**S（シングルAFサーボ）での至近優先ダイナミックAF**	0：する（至近優先ダイナミックAF・初期値） 1：しない
10	**C（コンティニュアスAFサーボ）での至近優先ダイナミックAF**	0：しない（初期値） 1：する（至近優先ダイナミックAF）
11	**AE・SBブラケティングの同時セット、単独セット**	AS：AE・SBブラケティングの同時セット（初期値） AE：AEブラケティングのみのセット Sb：SBブラケティングのみのセット

	機能	セット内容
12	**コマンドダイヤルの変更**	0：しない（初期値） 1：する
13	**露出補正簡易設定**	0：しない（初期値） 1：する
14	**多重露出撮影時の撮影方法の変更**	0：1コマ撮影（初期値） 1：連続撮影
15	**半押しタイマーの作動時間の変更**	4：4秒 8：8秒 6：6秒（初期値） 16：16秒
16	**セルフタイマーの作動時間の変更**	2：2秒 10：10秒（初期値） 5：5秒 20：20秒
17	**各ボタンの操作によるイルミネーターの点灯**	0：しない（初期値） 1：する
18	**0コマ目のデータ（年月日時分）写し込み**	0：しない（初期値） 1：する
19	**絞りの制御方法**	0：絞りの維持（初期値） 1：絞り段数維持
20	**セルフタイマー表示LEDによるレリーズの確認**	0：しない（初期値） 1：する
21	**AE／AFロックボタン操作による同時ロック、単独ロック、AEロックの維持**	0：AE・AFの同時ロック（初期値） 1：AEロックのみ 2：AFロックのみ 3：AEロックの維持
22	**レンズの絞りリングによる絞りセット**	0：しない（初期値） 1：する

［セット方法］：カスタムセッティングボタン CS を押しながら、メインコマンドダイヤルでメニューナンバーを選択し、サブコマンドダイヤルで表示パネルに希望するセット内容の数字または文字を点灯させます。詳細はP.72～77をご覧ください。

資料

技術的なお問い合わせのご案内

内容および操作に関する技術的なお問い合わせは、下記ニコンカスタマーサポートセンターをご利用ください。

ニコンカスタマーサポートセンター

0570-02-8000
市内通話料金でご利用いただけます。

全国共通電話番号 **0570-02-8000** にお電話を頂き、音声によるご案内に従いご利用の製品グループ窓口の番号を入力して頂ければ、お問い合わせ窓口担当者よりご質問にお答えさせて頂きます。

営業時間 9:30～18:00 ＜年末年始、夏期休業等を除く毎日＞

携帯電話、PHS等をご使用の場合は、**03-5977-7033** におかけください。
FAXでのご相談は、**03-5977-7499** におかけください。

株式会社 ニコン
ニコンカメラ販売株式会社

KL3K00201301 (K347)10